

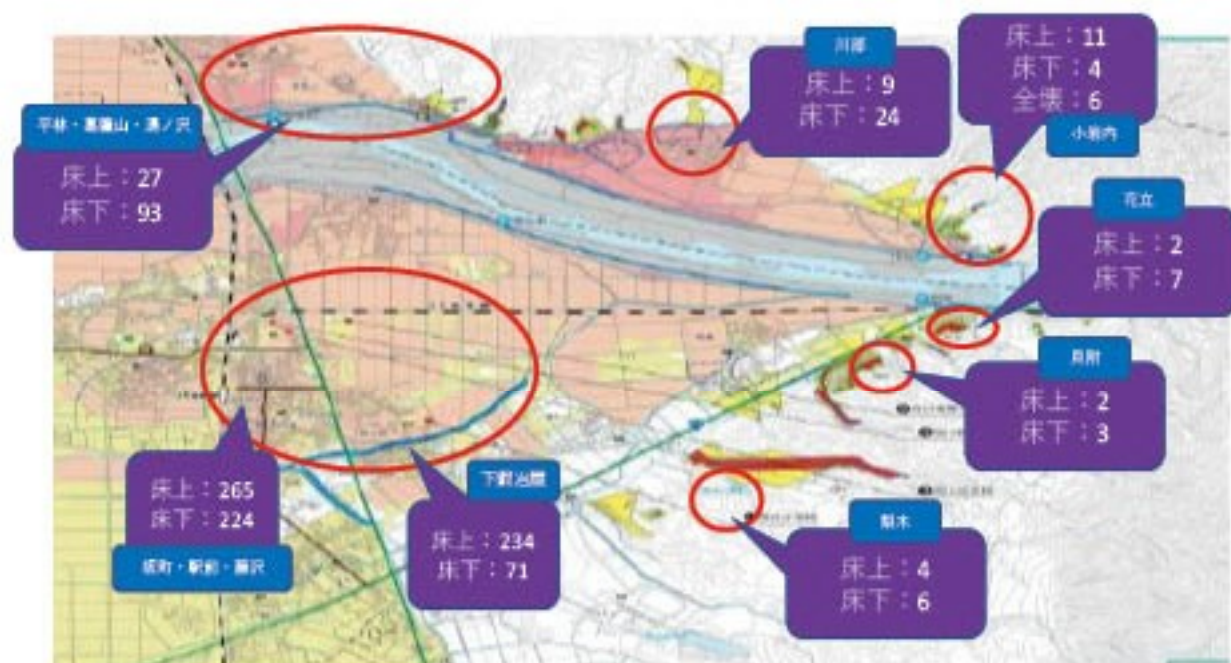
1. 災害の概要

8月3日から4日にかけて、日本海から伸びる前線が新潟県付近に停滞し、太平洋高気圧の縁を回る暖かく湿った空気が流れ込んだため前線の活動が活発となり、新潟県で記録的な大雨となった。

8月3日昼過ぎから8月4日明け方にかけては、村上市、関川村、胎内市、阿賀町で猛烈な雨を観測し、記録的短時間大雨情報(第1号～第16号)を発表した。また、下越では線状降水帯による非常に激しい雨が同じ場所で降り続いたことから、8月3日昼過ぎから夜遅くにかけて「顕著な大雨に関する新潟県気象情報(第1号～第3号)」を発表した。8月4日1時56分には村上市、関川村に4時5分に胎内市にそれぞれ大雨特別警報(土砂災害、浸水害)を発表した。これらの大雨の影響で、土砂災害、浸水害、洪水害が発生した。また、住家、停電、断水、電話の不通等ライフラインに被害が発生したほか、国道の通行止め、鉄道の運休等の交通障害が発生した。

(資料：新潟地方気象台速報提供)

2. 被害の状況



(資料：村上市危機管理室提供)



被害エリア



被害状況

人的被害 重傷1名
 住宅等被害 全壊6、大規模半壊14
 中規模半壊103、半壊457
 準半壊47
 準半壊に至らない1987

市道 138路線187箇所
 河川・水路 54路線70箇所
 農業関係 用排水路140箇所
 農道140箇所
 農地655箇所等
 事業者 被害総額12億9千万円
 その他保育所等公共施設などに被害が発生

(資料：村上市危機管理室提供)



第2章

1. 対応経過

○は活動等 ●は会議等 ※は活動中止

令和4年8月3日(水)から4日(木)未明の豪雨による災害発生	
8月4日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ●第1回村上市社会福祉協議会災害対策本部会議(以下「社協対策本部会議」) ○HPで村上市災害ボランティアセンター(以下「災害VC」)の開設予告周知 ○県社協、にいがた災害ボランティアネットワーク(以下「NSVN」)が支援 ●第1～3回災害VC設置検討ミーティング
8月5日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ●第4～5回災害VC設置検討ミーティング ○HPでボランティア募集周知開始 募集対象:阿賀北(ワクチン接種者) ○いわふね青年会議所(以下「いわふねJC」)災害時相互協定に基づき協働運営に参加 ○開設準備
8月6日(土)	<ul style="list-style-type: none"> ○災害VC開設(神林農村環境改善センター) ○ニーズ受付開始 ○「雑巾、タオル等の寄付のお願い」を市メールマガジンで周知 ○第1回災害VC周知活動(被災地域の区長宅訪問 社協ケアマネ) ○開設準備、屋外会場設営
8月7日(日)	<ul style="list-style-type: none"> ○ボランティア受付開始 ○市からの要請で小岩内集落への炊き出し(日赤奉仕団)
8月10日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ●コア会議 ○フェイスブック開設
8月11日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ●コア会議 ○個人ボラ募集範囲の拡大 募集対象:新潟県内(ワクチン接種者)
8月12日(金)	●班長会議(コア会議)
8月15日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ※大雨予報のため活動中止 ●第2回社協対策本部会議
8月16日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ※災害VC移転作業のため活動中止 ○災害VC移転作業(神林農村環境改善センター→パルパーク神林)
8月17日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ○パルパーク神林で災害VC活動開始 ●村上市民児協連合会 地区民児協会長会議
8月18日(木)	●コア会議
8月20日(土)	<ul style="list-style-type: none"> ●班長会議 ○個人ボランティア募集範囲拡大 募集対象:隣接県5県(山形・福島・群馬・富山・長野)(ワクチン接種者)
8月22日(月) ～28日(日)	<ul style="list-style-type: none"> ○民生児童委員によるニーズ調査(被災地域の「避難行動要支援者名簿」世帯) 災害VCの周知、心配ごと・困りごと等の調査 (民生児童委員 延べ152名 811世帯うち567世帯調査)

8月25日(木)	●班長会議
8月29日(月)	●班長会議
8月30日(火)	●コア会議
9月1日(木)	※第2回災害VC周知活動(ポスティング)のため活動中止 ○第2回災害VC周知活動(821世帯配布 地元社協・応援スタッフ計21名) 「災害VC」チラシ、「水害後の家屋の適切な対応」チラシの配付
9月2日(金)	●班長会議
9月5日(月)	●コア会議
9月6日(火)	○HP等で「9/12～週末型ボランティア(金・土・日・祝日のみ)へ移行」、「個人ボランティア登録制の実施」の周知
9月9日(金)	●班長会議
9月11日(日)	●ボランティア関係者会議
9月12日(月)	○週末型ボランティアに移行開始
9月13日(火)	○市内ボランティア確保のため「ボランティア募集」チラシ配布活動 市内スーパー6店舗(1,000枚配布 地元社協・いわふねJC 計19名)
9月16日(金) ～19日(祝)	○週末型ボランティア活動
9月21日(水)	○技術講習会 講師:災害NGO結 会場:災害VC
9月23日(金) ～25日(日)	○週末型ボランティア活動
9月25日(日)	※午前中悪天候のため、ボランティア活動中止 ○ボランティア講習会(午前中ボランティアを対象に実施) 講師:災害NGO結 会場:災害VC
9月26日(月) ～30日(金)	○災害VCでニーズ受付等の電話対応
9月27日(火)	○災害VCの撤去(ニーズ受付等除く)・資機材の返却
9月30日(金)	○災害VC閉鎖 ○10/1～ボランティア活動は「むらかみ見守り支援センター」に引継
10月1日(土)	○「むらかみ見守り支援センター」開設 ・場所:荒川支所2階 ・職員:2名 ・業務:被災地域の個別支援(見守り・相談等)、地域づくりの支援

◇スタッフミーティング 毎日(朝夕2回)

2. 会議等

期日	会議名	参加者	協議内容
8/4(木)	○第1回社協 対策本部会議 【8:00】	会長、副会長、 事務局長、課 長、参事	○社協対策本部設置を決定 ○被害状況の共有、デイサービスの休業対応、職員の安 否確認

		<ul style="list-style-type: none"> ○社協職員体制 最小限の職員を残し災害 VC へ ○行政との連携のため市福祉課へ職員 1 名派遣 ○災害 VC 設置することで市との協議
○第 1 回災害 VC 設置検討ミーティング 【11:00 頃】	県社協、NSVN、市社協	<ul style="list-style-type: none"> ○市との協議項目について <ul style="list-style-type: none"> ・災害 VC の設置 ・災害 VC 設置場所 ・被害状況の情報提供 ・経費負担 ○開設に向けた準備について
○市との協議 【13:00 頃】	市社協（事務局長他）、市福祉課	<ul style="list-style-type: none"> ○災害 VC 設置→設置の決定 ○災害 VC 設置場所、被害状況、経費負担等については順次連絡
○第 2 回災害 VC 設置検討ミーティング 【14:30 頃】	県社協、NSVN、会長、副会長、市社協	<ul style="list-style-type: none"> ○市からの報告 <ul style="list-style-type: none"> ・災害 VC 設置場所→神林農村環境改善センター（飲料水は断水のため使用不可） ・被害状況→把握中 ・災害 VC 会場準備品（電話、机、いす等）→市で準備 ・経費負担→今後協議 ○災害 VC 開始スケジュールについて <ul style="list-style-type: none"> 8/5（金） 広報、電話、コピー機等準備 8/6（土） 災害 VC スタート（ニーズ受付） 8/7（日） ボランティア受付開始 <li style="padding-left: 40px;">※ボランティア確保の観点から休日（日曜）から開始したい ○関川災害 VC との合同災害 VC について <ul style="list-style-type: none"> 県社協が調整→単独設置で決定 ○協議・準備について <ul style="list-style-type: none"> →総務チームと現場チームに分かれて行う
○第 3 回災害 VC 設置検討ミーティング 【18:00 頃】	市福祉課、県社協、NSVN、市社協	<ul style="list-style-type: none"> ○ボランティア募集範囲について <ul style="list-style-type: none"> → 阿賀北（ワクチン接種者）（根拠） 床上浸水（想定）200 件 ×依頼率 0.2=40 件 1 件のボランティア数 12 人 ボランティア数 360 人～840 人 ○災害 VC 組織体制について <ul style="list-style-type: none"> 総務班、受付班、ニーズ班、マッチング班、資材班 ○早急対応事項について

			<ul style="list-style-type: none"> ・センター本部（電話など）準備、受付（テント、仮設トイレ設置）、バス送迎手配、駐車場整理、ボランティア保険など
8/5（金）	○第4回災害VC設置検討ミーティング【9:00頃】	NSVN、会長、副会長、市社協	<ul style="list-style-type: none"> ○前日の検討事項の整理と報告について ○本日作業の確認について <ul style="list-style-type: none"> ・総務チーム <ul style="list-style-type: none"> 書式の検討、広報（市防災メール等）、事務機器、車両の調達、現況確認（被災集落、荒川・神林地域だけでなく朝日・山北地域も含む。被災地域区長等宅への連絡による）。 8/6ケアマネによる被災地域区長宅訪問準備 ・現場チーム <ul style="list-style-type: none"> テント・受付机等、資機材・看板の手配
	○第5回災害VC設置検討ミーティング【18:00頃】	市福祉課、NSVN、市社協	<ul style="list-style-type: none"> ○本日作業の報告と課題について ○団体ボランティアの募集範囲について <ul style="list-style-type: none"> → 新潟県内
8/10（水）	○コア会議	県社協、いわふねJC、市社協等	<ul style="list-style-type: none"> ○個人ボランティアの募集範囲の拡大について <ul style="list-style-type: none"> 募集範囲：阿賀北（ワクチン接種者） → 県内（ワクチン接種者） 理由：床上浸水件数が把握できたため 想定 200件 → 把握 558件 ○ボランティアの確保目標について <ul style="list-style-type: none"> 目標 平日 150人、休日 250人 団体への依頼が必要 ○職員の休暇（ルール化）について ○運営効率化（団体ボランティアの受付・マッチング）について → 現場コーディネーターの配置 ○行政からセンター移転の要請 <ul style="list-style-type: none"> 神林農村環境改善センター（現災害VC）を避難所とするため、パルパーク神林への移転要請
8/11（木）	○コア会議	県社協、NSVN、いわふねJC、市社協等	<ul style="list-style-type: none"> ○災害VCの移転について <ul style="list-style-type: none"> ・パルパーク神林へ8/17から移転決定 ・移転に向けたスケジュール ・周知方法、会場レイアウト、移転作業等の検討 ・移転に向けての行政との協議（行政と社協との分担）
8/12（金）	○班長会議（コア会議）	県社協、NSVN、NGO 結、市社協等	<ul style="list-style-type: none"> ○ニーズ、ボランティア活動の状況（受付・完了）について ○ニーズの整理方法（受付件数、完了件数等の把握）について

8/15 (月)	○第2回社協対策本部会議	会長、副会長、市社協等	○ボランティア参加状況について ○今後の災害VC活動の見通しについて ○今後の社協事業(イベント)について(ふれあいフェスティバル、地域懇談会等)
8/17 (水)	○村上市民児協連合会 地区民児協会長会議	NSVN NGO 結、市社協等	○民生児童委員によるニーズ調査(被災地域の「避難行動要支援者名簿」の世帯訪問)について 目的 ① 困りごとや悩みごとの把握ー内容によっては行政につなぐ ② 災害VCの周知 ③ ニーズの掘り起こし 内容 民生児童委員2人1組による訪問 実施期間 8/22(月)~28(日)
8/18 (木)	○コア会議	市福祉課、県社協、NSVN、NGO 結、市社協等	○個人ボランティアの募集範囲の拡大について 募集範囲: 県内(ワクチン接種者) 一隣接県5県(山形・福島・群馬・富山・長野 ワクチン接種者) 理由: ボランティアの確保 ○送迎バス台数計画の早期連絡、災害VCごみの委託等について
8/20 (土)	○班長会議	県社協、NSVN、NGO 結、市社協等	○民生児童委員によるニーズ調査の事務について① ・活動の準備、聞き取り体制
8/23 (火)	○コア会議	県社協、NSVN、NGO 結、ピースポート災害支援センター(以下「PBV」)、市社協等	○ボランティア活動の状況について ○ボランティア活動の優先基準について ○ボランティアの確保について
	○班長会議	県社協、NSVN、NGO 結、PBV、市社協等	○各班の状況について(報告) ○重点地区(小岩内、川部、花立等)のボランティア活動状況の見通しについて ○大人数団体のボランティア活動先について
	○コア会議	県社協、NSVN、NGO 結、PBV、市社協等	○民生児童委員によるニーズ調査事務について② ・報告時の災害VCスタッフの聞き取り内容 ○ボランティア活動の状況について ○ボランティアの確保について
8/25 (木)	○班長会議	県社協、NSVN、NGO 結、市社	○民生児童委員によるニーズ調査の事務について③ ・調査結果の分類方法

		協等	<p>○災害 VC 閉鎖について①</p> <ul style="list-style-type: none"> *閉鎖時期の協議に向けて把握すること ・ボランティア活動の状況 ・民生児童委員によるニーズ調査後のニーズの動向 <p>重点地区（小岩内、川部、花立等）のニーズ（区長からの聞き取り）</p>
8/29（月）	○班長会議	県社協、NSVN、NGO 結、市社協等	<p>○災害 VC 閉鎖について②</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢状況の把握 ・ボランティア活動の状況（技術系ボランティア、一般ボランティア） ・民生児童委員によるニーズ調査後のニーズの動向 ・重点地区（小岩内、川部、花立等）のニーズ状況 ➢一般世帯を対象に第2回災害 VC 周知活動を実施する。（民生児童委員によるニーズ調査は高齢者世帯を対象にしていた） <p>○第2回災害 VC 周知活動（ポスティング）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「避難行動要支援者名簿」以外の一般世帯の災害 VC 周知活動の実施 ・実施日 9/1（ボランティア活動休止） ・参加者 災害 VC スタッフ ・活動内容 ポスティングによるチラシ配布 *避難指示区域については、行政、区長、技術系ボラ等と協議して周知活動の実施の有無を決定する
8/30（火）	○コア会議	市福祉課、県社協、いわふね JC、NSVN、NGO 結、市社協等	<p>○災害 VC 閉鎖について③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・閉鎖に向けたボランティア活動方針について *大人数が必要な活動があるため、団体ボランティア中心に人数を多く重点地区に派遣 *他の地区は残ニーズ件数が少ない状況から個人ボランティア、小グループを派遣
9/2（金）	○班長会議	県社協、PBV、市社協等	<p>○災害 VC 閉鎖について④</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢状況の把握 ・民生児童委員によるニーズ調査、第2回災害 VC 周知活動後のニーズの動向 ・ボランティア活動状況 ➢2～3日後のニーズの状況を見て閉鎖時期を判断 <p>○ボランティア活動の優先基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・派遣優先度…生活優先（住宅・庭）、農地（ハウス等）は低く

9/5 (月)	○コア会議	市福祉課、県社協、NSVN、市社協等	○災害 VC 閉鎖について⑤ <ul style="list-style-type: none"> ・ 9/12～週末型へ移行し、9 月末で閉鎖を決定 理由： <ul style="list-style-type: none"> * 民生児童委員によるニーズ調査、第 2 回災害 VC 周知活動を実施した結果、新規ニーズの増加が少ない * 残ニーズ件数が減少している * 重点地区のボランティア活動が順調である ○9 月末閉鎖に向けた取り組みについて <ul style="list-style-type: none"> ・ 今後のボランティア活動方針（これまでの方針を堅持） <ul style="list-style-type: none"> * 重点地区を中心に派遣し、閉鎖までにはほぼ終了させる ・ 閉鎖の周知 <ul style="list-style-type: none"> * 被災地域区長へ説明 * 社協 HP や市メールマガジン等
9/9 (金)	○班長会議	県社協、NGO 結、市社協等	○災害 VC 活動状況について <ul style="list-style-type: none"> ・ ニーズ完了の見通し ・ ボランティア確保の見通し
9/11 (日)	○ボランティア関係者会議	市福祉課、消防団、県社協、いわふね JC、市社協等	○ボランティアの確保について <ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティアが減少しているため、閉鎖時にニーズを残さないために個人ボランティアの確保が課題 ・ 地元ボランティア確保のため、募集チラシ配布行動 (9/13) の実施を決定
9/12 (月)～(数回)	○見守り支援センターに関する協議	市福祉課、市社協	○見守り支援センターに関する協議 <ul style="list-style-type: none"> ・ 事務所、体制、業務内容等

新潟県社会福祉協議会 災害福祉支援活動本部 情報共有会議

第 1 回 (8/4)、第 2 回 (8/5)、第 3 回 (8/6)、第 4 回 (8/7)、第 5 回 (8/8)、第 6 回 (8/10)、第 7 回 (8/12)、第 8 回 (8/15)、第 9 回 (8/19)、第 10 回 (8/22)、第 11 回 (8/25)、第 12 回 (8/30)、第 13 回 (9/5)、第 14 回 (9/12)、第 15 回 (9/12)、第 16 回 (9/20)

3. 災害ボランティア活動の状況

(1) ニーズ件数・ボランティア数

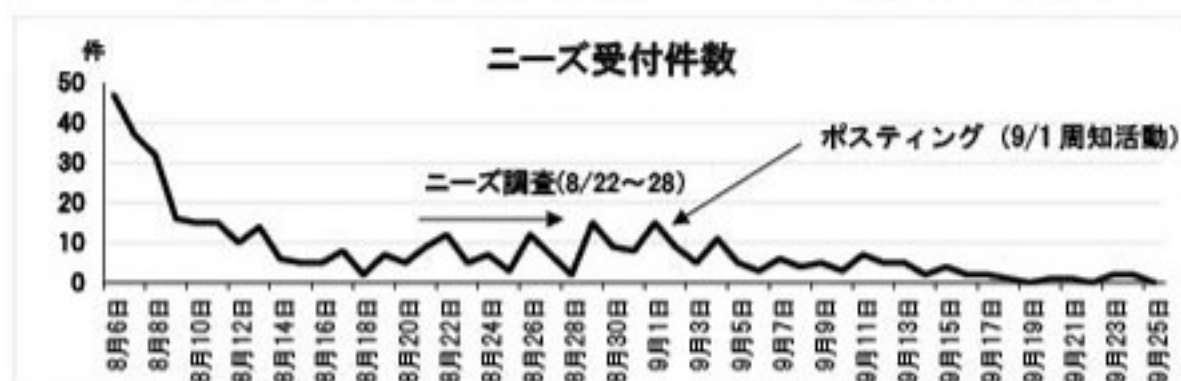
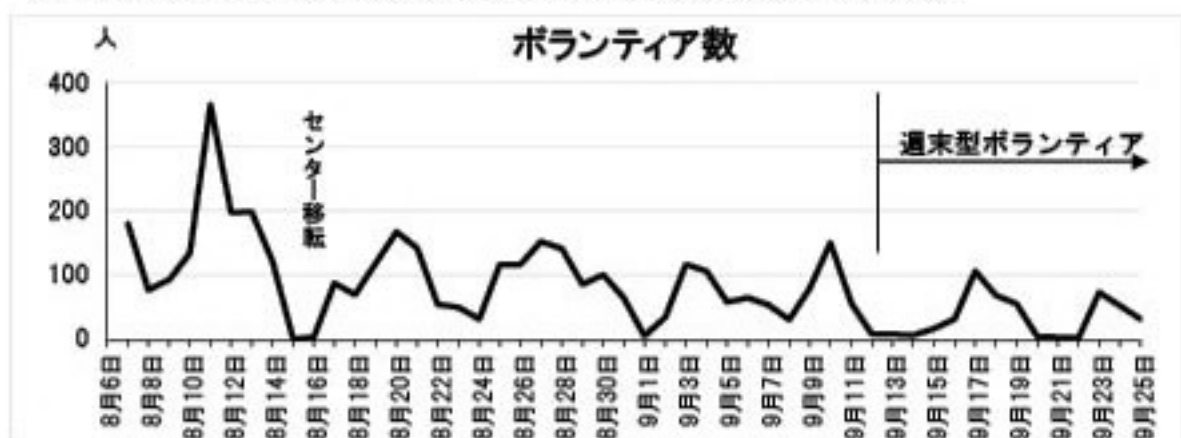
月 日	ニーズ 受付	ボランテ ィア数	活動 件数	累 計			ニーズ 完了	完了率
				ニーズ 受付	ボランテ ィア数	活動件数		
8月6日(土)	47件	—		47件	— ※	— ※	3件	6%
8月7日(日)	37件	180人	42件	84件	180人	42件	28件	33%
8月8日(月)	32件	77人	33件	116件	257人	75件	37件	32%
8月9日(火)	16件	93人	16件	132件	350人	91件	45件	34%
8月10日(水)	15件	134人	17件	147件	484人	108件	50件	34%
8月11日(木)	15件	366人	54件	162件	850人	162件	66件	41%
8月12日(金)	10件	197人	32件	172件	1,047人	194件	81件	47%
8月13日(土)	14件	198人	31件	186件	1,245人	225件	93件	50%
8月14日(日)	6件	121人	20件	192件	1,366人	245件	103件	54%
8月15日(月)	5件	1人	0件	197件	1,367人	245件	103件	52%
8月16日(火)	5件	4人	0件	202件	1,371人	245件	103件	51%
8月17日(水)	8件	88人	14件	210件	1,459人	259件	116件	55%
8月18日(木)	2件	70人	19件	212件	1,529人	278件	126件	59%
8月19日(金)	7件	119人	19件	219件	1,648人	297件	136件	62%
8月20日(土)	5件	167人	16件	224件	1,815人	313件	142件	63%
8月21日(日)	9件	142人	19件	233件	1,957人	332件	148件	64%
8月22日(月)	12件	55人	15件	245件	2,012人	347件	157件	64%
8月23日(火)	5件	50人	8件	250件	2,062人	355件	165件	66%
8月24日(水)	7件	32人	4件	257件	2,094人	359件	170件	66%
8月25日(木)	3件	117人	7件	260件	2,211人	366件	175件	67%
8月26日(金)	12件	117人	14件	272件	2,328人	380件	180件	66%
8月27日(土)	7件	152人	23件	279件	2,480人	403件	195件	70%
8月28日(日)	2件	141人	15件	281件	2,621人	418件	210件	75%
8月29日(月)	15件	86人	11件	296件	2,707人	429件	226件	76%
8月30日(火)	9件	101人	9件	305件	2,808人	438件	235件	77%
8月31日(水)	8件	65人	6件	313件	2,873人	444件	260件	83%
9月1日(木)	15件	6人	0件	328件	2,879人	444件	261件	80%
9月2日(金)	9件	35人	8件	337件	2,914人	452件	266件	79%
9月3日(土)	5件	117人	14件	342件	3,031人	466件	278件	81%
9月4日(日)	11件	106人	14件	353件	3,137人	480件	286件	81%
9月5日(月)	5件	58人	6件	358件	3,195人	486件	304件	85%
9月6日(火)	3件	65人	3件	361件	3,260人	489件	316件	88%
9月7日(水)	6件	54人	9件	367件	3,314人	498件	322件	88%

9月8日(木)	4件	31人	6件	371件	3,345人	504件	327件	88%
9月9日(金)	5件	80人	5件	376件	3,425人	509件	338件	90%
9月10日(土)	3件	150人	14件	379件	3,575人	523件	341件	90%
9月11日(日)	7件	57人	8件	386件	3,632人	531件	347件	90%
9月12日(月)	5件	9人	0件	391件	3,641人	531件	349件	89%
9月13日(火)	5件	9人	0件	396件	3,650人	531件	358件	90%
9月14日(水)	2件	7人	0件	398件	3,657人	531件	358件	90%
9月15日(木)	4件	17人	0件	402件	3,674人	531件	364件	91%
9月16日(金)	2件	32人	7件	404件	3,706人	538件	369件	91%
9月17日(土)	2件	106人	12件	406件	3,812人	550件	375件	92%
9月18日(日)	1件	69人	8件	407件	3,881人	558件	378件	93%
9月19日(月)	0件	56人	7件	407件	3,937人	565件	385件	95%
9月20日(火)	1件	5人	0件	408件	3,942人	565件	389件	95%
9月21日(水)	1件	4人	0件	409件	3,946人	565件	390件	95%
9月22日(木)	0件	3人	0件	409件	3,949人	565件	390件	95%
9月23日(金)	2件	73人	8件	411件	4,022人	573件	396件	96%
9月24日(土)	2件	53人	5件	413件	4,075人	578件	399件	97%
9月25日(日)	0件	32人	4件	413件	4,107人	582件	410件	99%

※8/6 ボランティア活動 スタッフ・民生児童委員による

※ボランティア数・活動件数は技術ボランティアを除く

※ニーズ完了には、ニーズ受付したもので、技術ボランティアにより完了したものも含む



(2)災害ボランティア参加者 地域内訳

	合 計	うち市内	うち県内	うち県外	県 外 地 域
個人参加	1,357人 (33.0%)	414人	801人	142人	長野県、山形県、福島県、富山県、 埼玉県、群馬県、栃木県、千葉県、 静岡県、広島県、大阪府、東京都
※1 団体参加	2,750人 (67.0%)	※2 978人	1,179人	593人	長野県、山形県
計	4,107人	1,392人 (33.9%)	1,980人 (48.2%)	735人 (17.9%)	

※1 大人数での参加団体は小岩内・川部・貝附・花立など被災が大きい地域に派遣。(約1,000人)

※2 市内団体参加のうち村上市消防団672人(小岩内・川部・貝附・花立など被災が大きい地域に派遣)

(3)町内集落別ニーズ件数

地 区	町内集落名	ニーズ件数	地 区	町内集落名	ニーズ件数
荒 川	貝 附	7件	神 林	平 林	33件
	花 立	26件		葛籠山	1件
	荒 島	5件		湯の沢	6件
	春木山	4件		川 部	33件
	下鍛冶屋	51件		小岩内	6件
	梨 木	7件		松喜和	1件
	野 口	1件		計	80件
	坂 町	37件	朝 日	黒 田	1件
	駅 前	61件		布 部	2件
	藤 沢	105件		計	3件
	前坪団地	14件	合 計		413件
	山 口	4件	※ 小岩内、川部集落は、この他に区長とりまとめによるニーズあり。小岩内集落にはサテライト機能(コミュニティマッチング)が生まれた。		
	松 山	4件			
	大 津	3件			
	金 屋	1件			
計	330件				

(4) ボランティア保険加入状況(受付での加入者のみ)

	個人参加	団体参加	学生	計
人数	313人	183人	275人	771人

※ 学生の保険料は村上市で負担。

(5) ボランティア登録者数(週末型ボランティア移行時に登録制度を設置) 162人の登録

(6) ボランティア活動内容

- 濡れた家財等の搬出
- 家屋内外の土砂・泥出し・片付け・拭き掃除
- 側溝・神社・公園等共有地の泥出し
流木撤去
- 床下確認、床板・壁はがし、消毒(方法)



4. 多様なボランティア活動

① 日赤安全奉仕団【26日間 64人】

ボランティアへの安全上の注意喚起、ボランティア・被災者への熱中症注意の巡回他



② 赤十字地域奉仕団【1回 13人】

小岩内への炊き出し(弁当150食)



③ 地域ボランティア

災害VC内の物資整理【2日間 7人】

炊き出しサポート【2日間 5人】



④ コーヒーボランティア【3日間6人】

被災地で
コーヒーを提供



⑤ お話相手ボランティア【4日間4人】

避難所にてお茶等を提供し、おしゃべりの場を



⑥ 新潟県鍼灸マッサージ師会

【2日間6人】



⑦ 北越高校サッカー部【1回10人】

被災地の子どもを対象にした
サッカー教室



⑧ いわふね青年会議所

被災地域での緑日【1回4人】

運営スタッフへの炊き出し【1回4人】



⑨ 村上地区民生委員児童委員連絡協議会【2日間14人】

荒川地区、神林地区が断水したため、「飲料水（ペットボトル）の配付活動」（荒川地区、神林地区高齢者のみ世帯の希望者 42世帯）

飲料水（ペットボトル）は市水道局が提供

5. 情報発信

(1) 社協ホームページ

★アクセス数

	社協ホームページアクセス総数	うちフェイスブックへのアクセス数
7月	1,362件	
8月	23,520件（+22,158件）	8,600件
9月	6,215件（△17,305件）	3,700件
10月	2,323件（△3,892件）	650件

※（ ）は前月比較

★掲載情報

- 8/4 大雨被害調査（ボランティア派遣ニーズを調査中）
- 8/4 災害ボランティアセンターを開設予告
- 8/6 災害ボランティアセンターの開設
災害ボランティア募集（感染防止対策、活動時間、持ち物、要件等記載）
- 8/8 タオル受付終了
- 8/9 雨天に伴う活動の可否
- 8/10 個人ボランティア受け入れ範囲拡大 Facebook の開設 高速道路通行証明書の発行
- 8/13 ボランティアセンター移転
- 8/14 大雨予想のため8/15 ボランティア受付中止
- 8/18 ボランティア募集範囲拡大
- 8/30 県ボランティアバス運行
9/1 職員による被災地区ポスティングのためボランティア活動中止
- 9/2 ボランティア入浴無料券の配布
技術系サポーター募集
- 9/7 ボランティア活動の週末型への移行
- 9/17 ボランティア登録制
- 9/29 むらかみ見守り支援センターへの移行

(2) チラシ等

- 8/6 災害ボランティアセンター周知
- 9/1 ニーズ掘り起し（ポスティング）
- 9/13 市内ボランティア募集（市内スーパー6店舗にて配布）

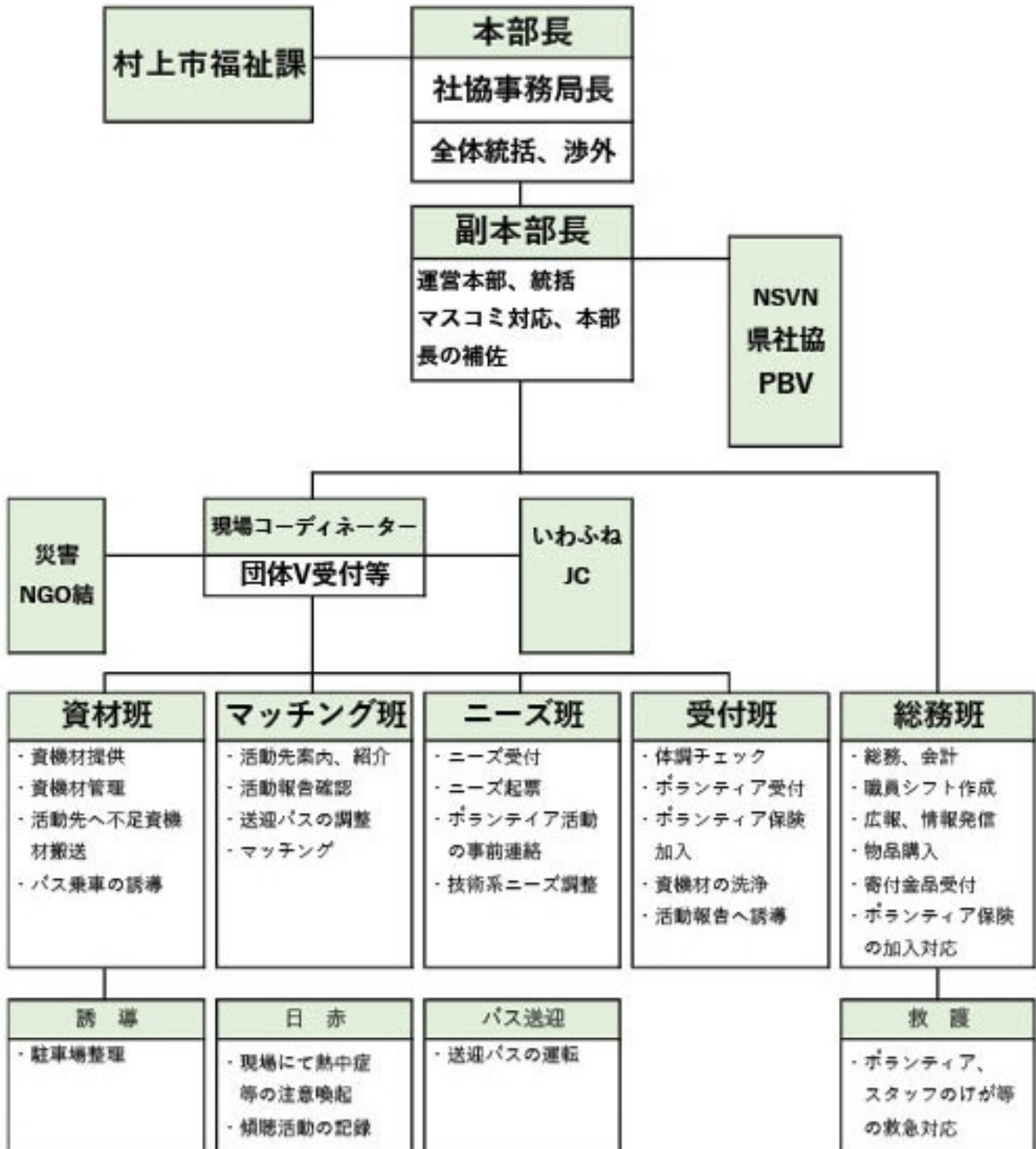
(3)むらかみ防災・防犯情報ねっと

- 8/5 村上市災害ボランティアセンターの設置
- 8/6 雑巾、タオル等の寄付のお願い
- 8/6 災害ボランティア受け入れ
- 8/7 村上市災害ボランティアセンターからのお知らせ（ニーズ受付、ボランティア受入）
- 8/8 村上市災害ボランティアセンターからのお知らせ（ニーズ受付、ボランティア受入）
- 8/11 村上市災害ボランティアセンターからのお知らせ（ニーズ受付、ボランティア受入）
- 8/14 村上市災害ボランティアセンター活動休止のお知らせ
- 8/17 活動ボランティアの募集
- 8/19 災害ボランティア募集範囲拡大
- 8/22 村上市災害ボランティアセンターからのお知らせ（ボランティア募集）
- 8/31 村上市災害ボランティアセンターから休止のお知らせ（9/1 活動中止）
- 9/6 村上市災害ボランティアセンターからのお知らせ（週末型活動へ変更）
- 9/8 村上市災害ボランティアセンターからのお知らせ【訂正】（週末型活動へ変更）

1.運営体制

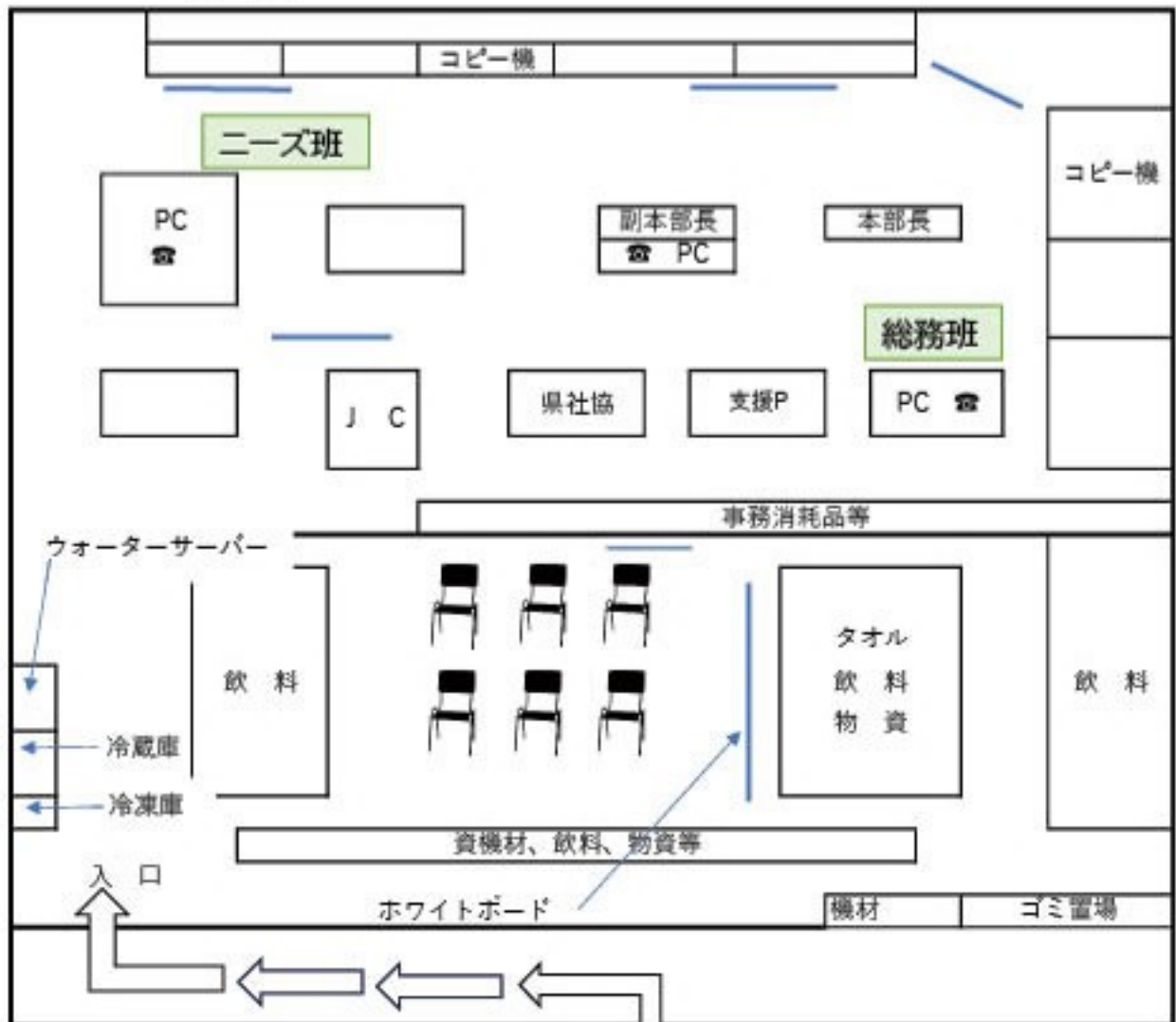
(1)組織図

村上市災害ボランティアセンター組織図

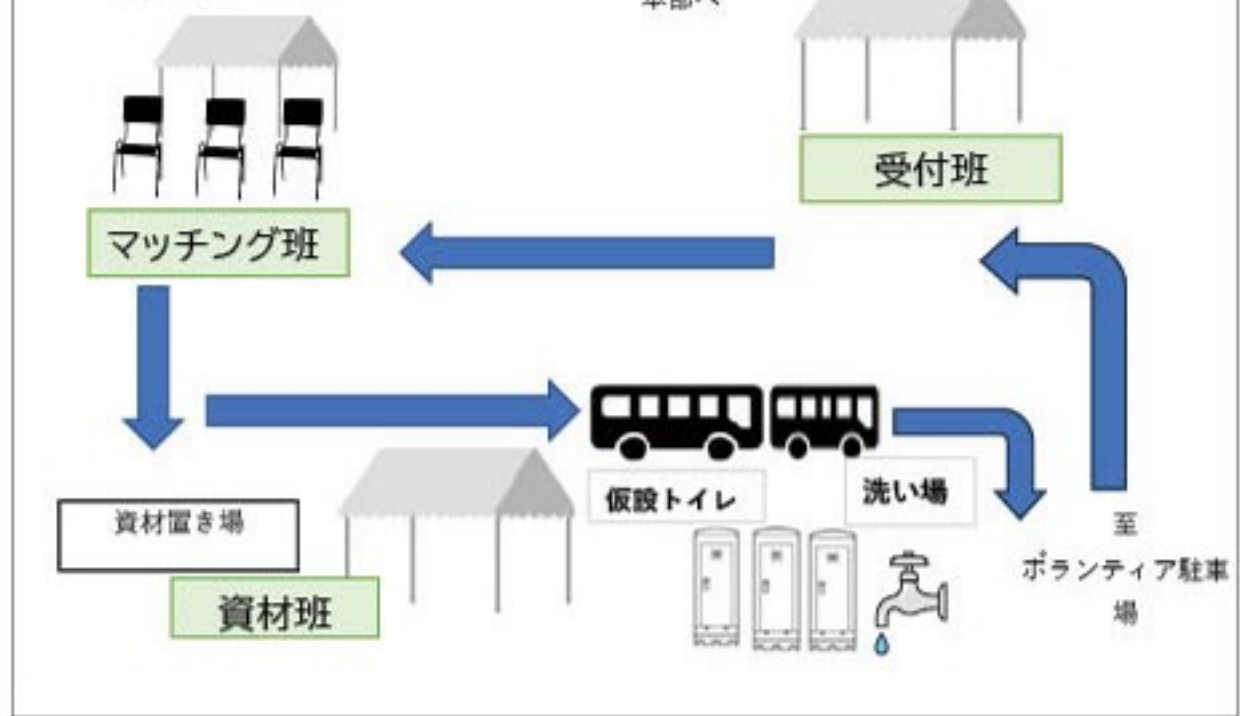


(2)会場レイアウト

屋 内



屋 外



(3)1日の流れ

- ・開設時間 8:30～17:00
- ・ボランティア受付時間 8:30～12:00
- ・ボランティア活動時間 9:00～15:00

7:30	スタッフ集合
8:00	朝のスタッフミーティング スタッフ配置確認 団体予定、送迎バス配車予定、市及び各班からの連絡事項
8:30	開 所 ボランティア受付、ニーズ受付（電話）等開始
12:00	ボランティア受付終了
15:00	ボランティア活動終了
16:30	ボランティア受入数、ニーズ件数、活動件数等記入
17:00	夕方のスタッフミーティング 各班からの報告、課題対応、連絡事項等

(4)業務の内容

①本部長・副本部長

★役割

- ・全体統括、渉外
- ・本部業務全般（組織・スタッフ配置、市・県社協等との連絡調整）
- ・マスコミ対応
- ・打合せ、ミーティング
- ・データ収集・把握



スタッフミーティング



報道取材

★活動内容

- ・センター全体の業務をスムーズに回すために、細かな心配りを行うように留意する。

(1) センター全体のとりまとめ

①各班の状況の把握

②スタッフ間で情報や認識を共有するためのスタッフミーティング（朝・夕）の開催

※地元・派遣に関係なく全スタッフ参加

○朝のスタッフミーティング

本日のスタッフ・予定確認

前日のミーティングで出された課題の検討結果報告、重要事項伝達等

○夕のスタッフミーティング

各班から本日の活動状況、問題点・課題等報告

明日の予定などの説明

※軽易な問題の対応については、その場で協議し、その他は班長会議等で協議する。

③班長会議、コア会議の開催

- 重要な案件で、各班のリーダーと協議する必要がある場合に随時開催
- 案件によっては、外部支援者等関係者を含めたコア会議として必要時に開催

④各班で判断がつかないことの対応

(2) 市、県社協、ボランティア団体等との連絡調整

- ① 市との連絡調整
- ② 県社協との連絡調整
- ③ ボランティア団体、技術系ボランティア団体等との連絡調整
- ④ その他の団体との連絡調整

(3) 活動集計、報告

- ① ボランティア受付数、ニーズ受付数、派遣件数を取りまとめ、市、県社協等への報告

(4) マスコミ対応

- ① 報道機関からの取材対応
- ② 報道機関への情報発信

②現場コーディネーター

★役割

- ・災害VCのオペレーション（各班間の調整）
- ・外部支援者との調整
- ・県社協主催による情報共有会議に参加、圏域間の情報共有を図り、内部への反映

★活動内容

- ① 各班内の役割を見ながら、班間での調整を行い必要に応じて改善をする。
- ② その日の災害VC全体を見ながら、多人数の団体ボランティアについては専用受付、マッチングを行うなど、適宜対応を図る。
- ③ ボランティアバスなど多人数の受け入れや、技術系ボランティアの受け入れ、消防団（消防本部）との事前調整を行う。
- ④ 被災集落の状況に応じて、区長・役員またはセンタースタッフを現地コーディネーターとして常駐させる。サテライト機能を検討し、サテライト機能（コミュニティマッチング）を持つことを決定した集落については、サテライトとの連絡調整を行う。



班間の調整



サテライト機能をもった小岩内集落のマッチングボード

- ⑤ 災害支援活動の一環として、サロンや技術講習会を企画する
- ⑥ 県社協災害福祉支援活動本部情報共有会議、市、外部団体等と情報共有を行い、災害VC運営への反映を図る。

③総務班

★役割

- ・災害VC全体の取りまとめを行う要として、内外の運営スタッフの配置管理を行う。ボランティア・スタッフ双方が安全に活動・業務出来るよう救護・保険対応等も行う。
- ・災害VC全体の資機材、備品、事務用品、飲料の調達管理及びそれにかかわる会計事務を行う。
- ・災害VC全体の広報を行うとともに、各種情報収集に努め、マスコミ・ホームページ等を活用し情報発信を行う。
- ・寄付金品・貸与物品の受付、管理、保守を行う。
- ・外部からの問い合わせ等各班に属さない業務を行う。



たくさんの支援物資

★活動内容

- 1 総務・会計（会計、外部からの問い合わせの対応、実績集計その他各班の業務に属さない業務）
 - (1) スタッフの管理
 - ① スタッフの受け入れ、概要説明、各班への配置
 - ② 看護師、掃除スタッフ、送迎バス運転員の手配
 - ③ スタッフ名簿を作成
 - (2) 会計・物品管理
 - ① 現金の管理、預金引き出し
 - ② 会計簿の管理
 - ③ 備品・物品の購入、貸与手続き、管理保守
 - ④ 寄付（災害ボランティアセンター運営資金）等の受け入れ・受付票（資料編 NO. 8）の記入
 - (3) その他
 - ① ボランティア等のケガ、病気への対応 熱中症対策
 - ② 施設管理（駐車場の管理）、ゴミの収集、仮設トイレの管理
 - ③ 外部からの問い合わせ等への対応
 - ④ ボランティア保険加入者の取りまとめ
 - ⑤ ボランティア活動証明書（資料編 NO. 7）の発行
- 2 広報（ボランティア募集などの広報、各種情報収集及びホームページ等での情報発信）
 - (1) 広報・情報提供
 - ① むらかみ防災・防犯情報ねっと

- ② 社協ホームページ、フェイスブック
 - ③ 立て看板の設置（※ 準備段階の現場チームで発注・設置）
 - ④ チラシ
- (2) その他
- ① スタッフ間の情報共有

ミーティング、掲示板への貼り出し、資料の配布等

★物品等

	用 品
1	コピー機（複合機3台）
2	電話機・ファックス
3	無線機
4	パソコン・Wi-Fi
5	プリンター
6	ホワイトボード
7	台車
8	文房具（筆記用具、修正テープ、ホチキス、面びょう、付箋、クリップ、カッター、はさみ、セロテープ、クリアファイル他）
9	乾電池
10	ナンバリング
11	コピー用紙
12	模造紙
13	ガム・布テープ、養生テープ
14	電卓
15	電話帳
16	電源ドラム
17	ティッシュペーパー、トイレットペーパー
18	ビニール袋
19	ナイロンロープ・ビニールひも
20	救急医療品
21	手指消毒用消毒液
22	掃除用品（ほうき、チリトリ、トイレ掃除用具、洗剤）
23	書類整理用ケース
24	熱中症対策消耗品（冷却バック、飴、飲料水）
25	冷蔵庫、冷凍庫

※ 電源・夜間対策の発電機、投光器等は準備しなかった。

④ニーズ班

★役割

- ・被災者から依頼のニーズを受け付ける。被災者との最初の接点であることから、接遇には十分留意し、相談の中から、被災状況や隠れたニーズを把握するよう努める。
- ・必要とするボランティア活動の内容を正確に聴き取り、ボランティア要請票（資料編 NO.1）の作成、派遣場所の地図作成をする。
- ・ニーズ進捗管理（データ入力・集計）を行い、マッチング班と連携し、ボランティア派遣の調整を行い事前に依頼者へ連絡する。



ニーズ受付の電話対応の様子

★活動内容・手順

（1）被災者ニーズの聴き取り

- ① 電話（FAX）、来所により、ニーズの聴き取りを行う。災害VC対応かどうか判断に迷ったときは、技術系ボランティアに相談し、現地調査に行く。
または、電話ではニーズ内容が不明な場合等も現地調査に行く。
- ② ボランティア要請票（資料編 NO.1）に沿って、活動内容等を正確に聴き取り、記入する。

〔聴き取りの際の留意事項〕

- ・活動の安全が確保されているか、特別な配慮が必要ではないか。
- ・緊急を要するか否か。（高齢者・障害者世帯、一人暮らしなどのケースは、優先的に派遣）
- ・ボランティア数によって、派遣日時は希望に沿えないこともあることを説明し、派遣が決定したら、必ず事前連絡をする。
- ・ボランティアの年齢・性別を考慮する必要はあるか。
- ・依頼内容が「危険な作業や専門技術の必要な作業、企業の営利活動に関するもの、政治や宗教活動に関するもの、極端な重労働など」に該当する場合は、丁重に断る。

技術系作業が必要か、丁寧に聴き取り、災害VCで対応可能か判断する。

- ・判断に困る場合は、他のスタッフに相談する。また、難しいケースや事前調査が必要と思われるケースは「現場確認後、判断させてもらう」ことを依頼者に伝える。
- ・センター帰所時間が16:00であることを伝える。
- ・ニーズ以外で被災者等からの苦情や意見等については、内容をよく聴き取りメモを残し、本部掲示板への掲示、ミーティングでの報告等によりスタッフ間で情報を共有する。

- (2) ニーズ受付データの入力（記録）、地図の作成
- ① ボランティア要請票（資料編 NO. 1）の内容（資料編 NO. 201）をデータ入力する。
 - ② 地図は広域地図と住宅地図（対象世帯をマーカーで印）をセットにする。
 - ③ ボランティア要請票（資料編 NO. 1）と派遣場所の地図をコピーし2部作成する。1部はマッチング用、1部はニーズ班の控えとする。
- (3) 翌日のボランティア派遣予定の検討
- ① 緊急度、優先度、地理、ボランティア派遣人数、ボランティア参加見込み数などを考慮し、翌日のボランティア派遣予定を考える。
- (4) 翌日（場合によっては当日）の派遣について依頼者への事前連絡
- ① 派遣が決定したら、事前に依頼者へ電話で連絡をする。
- (5) マッチング班への引き継ぎ
- ① 地図とセットしたボランティア要請票（資料編 NO. 1）をマッチング班に手渡す。
（詳細情報がある場合は、口頭で補足する。）
- (6) 活動報告（活動報告書の受領）
- ① マッチング班からボランティア指示書兼活動報告書（資料編 NO. 2）を受けとる。
 - ② ボランティア指示書兼活動報告書（資料編 NO. 2）の内容をデータ入力する。
 - ③ ボランティア指示書兼活動報告書（資料編 NO. 2）は完了済、継続に分類する。
 - ④ 継続については戻ってきたボランティア要請票（資料編 NO. 1）の下部に活動を行った日をマジックで記入し、裏面を記入されていないボランティア指示書兼活動報告書（資料編 NO. 2）にし2部作成する。地図もそれぞれに添付し、派遣依頼に戻す。
 - ⑤ 完了となったボランティア活動で、新たな要請内容が発生した場合は、新規ニーズとして受付、ボランティア要請票（資料編 NO. 1）の作成、データ入力する。
- (7) 最終報告
- ① ニーズ受付件数、完了件数を集計し副本部長に報告する。

★物品等

	用 品
1	電話
2	広域地図・住宅地図
3	パソコン
4	文房具（ボールペン・マーカーペン・マジック、ホチキス、セロテープ、書類整理ケース等）
5	ホワイトボード
6	ボランティア要請票（資料編 NO. 1）

⑤受付班

☆役割

- ・被災地に来てくれたボランティアと最初に接する窓口であり、感謝の気持ちをもって接するよう留意する。
- ・受付事務全般をスムーズな流れで行えるよう導線を考慮する。
- ・ボランティアが安全に安心して活動できるよう体調チェック（新型コロナウイルス感染症対策含む）、ボランティア保険加入推奨と事務を行う。



ボランティアの受付の様子

☆活動内容・手順

(1) 体調チェックと受付票等の配布

- ① 検温、ワクチン接種の有無と体調を確認する。
- ② 次の用紙等を配布し記入台へ誘導する。
 - ・ボランティア受付票（個人 資料編 NO. 3、団体資料編 NO4）
 - ・健康チェックシート（資料編 NO. 5）・名札シール
- ③ 団体でのボランティア活動保険加入の場合は、ボランティア活動保険受付簿（資料編 NO. 6）の標題（団体用）に○をつけて、団体の代表者に用紙を渡し記入してもらう。
※名札シールは、マジックでひらがなフルネームで記入して体の見やすい位置に貼ってもらう。

〈確認事項〉

- ・ワクチン接種確認→接種していれば、回数は問わない。必ず確認する。
- ・ボランティア参加について初回か2回目以降か→2回目以降の方は、ボランティア受付票の記入は名前と連絡先のみでよい。受付担当が右上に「2回目」と記載する。
- ・ボランティア活動保険（学生は無料 ←市負担）
天災・地震補償： 500円 特定感染症重点型：550円

(2) ボランティア受付

- ① 記入されたボランティア受付票（個人 資料編 NO. 3）、健康チェックシート（資料編 NO. 5）を確認する。
- ② ボランティア活動保険未加入の場合
 - ・保険加入を勧める。
 - ・加入の場合は、ボランティア活動保険受付簿（資料編 NO. 6）に記入してもらう。
 - ・保険料を受領し、ボランティア活動保険加入カードを渡し、その場でカードに記名してもらう。
- ③ ボランティア活動証明書（資料編 NO. 7）、高速道路通行証明書が発行できること伝え、必要な方は活動後に受付に来てもらうように伝える。

- ④ 出発前に熱中症予防の水分や塩分を持参するように呼び掛ける。受付に冷えた飲み物、飴等準備し、希望の方には配布する。
- ⑤ 受付が終了したら、マッチングテントへ移動してもらう。

(3) 活動後の迎え入れ

- ① 活動への感謝、お礼を伝え出迎える。
- ② 使用した資材等を資材置き場に返却させ、リーダーにはマッチング班で活動報告をしてもらう。
- ③ 冷たいおしぼり、飲み物などを渡す。
- ④ ボランティア活動証明書(資料編 NO. 7)、高速道路通行証明書を必要な方に発行する。
(証明書に日付を記入し、受付印を押す)
- ⑤ 無料で入浴できる温泉施設の案内を行い、希望者に無料温泉入浴券を配付する。

(4) 受付の集計

- ① 1日3回(11:00、13:00、16:00)個人ボランティア、団体ボランティアの受付数をそれぞれ地域別に集計し、本部ホワイトボードに記入し、本部に報告する。
- ② ボランティア活動保険加入者受付簿と保険料を集計し、現金と共に総務班に渡す。
- ③ 無料温泉入浴券の配布枚数を集計し、ミーティングで報告する。(総務班は記録する。)

(5) 個人ボランティアが募集範囲外から来た場合の対応

- ① 受け入れ対象地域以外の方が直接、受付に来た場合は体調チェックを行い、問題なければ活動してもらう。

★物品等

	用 品
1	ボランティア受付票(個人資料編 NO. 3)(団体資料編 NO. 4)記載例
2	健康チェックシート(資料編 NO. 5)
3	ボランティア活動保険受付簿(資料編 NO. 6)
4	ボランティア活動証明書(資料編 NO. 7)
5	高速道路通行証明書
6	ボランティア活動保険加入カード
7	ボランティア活動保険領収書
8	名札シール
9	文房具(マジック、ボールペン、ガムテープ、ハサミ、計算機、整理袋等)
10	立て看板(受付)
11	カラーコーン
12	体温計
13	熱中症対策品(飲料、飴、おしぼり等)
14	プラスチックバケツ特大
15	手指消毒用アルコール

⑥ マッチング班

☆役割

- ・ ボランティア要請票に沿い、ボランティアの活動希望と結び付け、オリエンテーションを行い、不安なくボランティアを送り出す。
- ・ 需要のミスマッチを防ぎ、ボランティアの安全を確保したうえでボランティアの自発性・柔軟性を活動に活かすよう留意する。
- ・ 移送手段を確保し、地理に不安なボランティアには案内を行う。
- ・ ボランティア活動後、実際の活動の様子、継続の有無等聞き取りと確認を行う。



オリエンテーションの様子

☆活動内容・手順

(1) 事前準備

- ① ボランティア要請票（資料編 NO. 1）と地図をニーズ班から受け取る。
（注意事項等をよく確認すること。）
- ② ボランティアの送迎車両について調整する。

(2) マッチング

- ① 緊急度の高いものや必要人数の多いものから、ボランティアに声掛けしてグルーピングを行い、グループリーダーを決めてもらう。
- ② グループリーダーに次の書類を渡す。
 - ・ ボランティア指示書兼活動報告書（資料編 NO. 2）※ボランティア要請票の裏面
 - ・ 地図
 - ・ ボランティアに行く前に（資料編 NO. 9）
 - ・ リーダーの方へのお願い（資料編 NO. 11）
 - ・ チラシ「依頼者へのご案内」（資料編 NO. 10）

※ 依頼者に渡し、災害 VC から来たことを説明する資料

- ③ ボランティア要請票（資料編 NO. 1）の裏面のボランティア指示書兼活動報告書（資料編 NO. 2）にボランティアの氏名・携帯電話番号を書いた付箋を貼ってもらい、オリエンテーションを行う。

(3) オリエンテーション

- ① ボランティアの心構え
- ② 1日の活動の流れ
- ③ 活動にあたっての注意事項（特に熱中症等の健康管理に注意するように呼びかける）
- ④ 活動終了後の報告

(4) 送り出し

- ① 活動場所までの移動方法を説明する。
- ② ボランティアが私用車を使用する場合は、原則として免許証の写しをとる。
- ③ 巡回バスの場合は、降車場所・時間と帰りの乗車場所・時間を説明する。

(5) 活動状況の確認

- ① ホワイトボードを利用してマッチングボード（資料編 NO.202）を作成する。
- ② 当日のボランティアの派遣先がわかるようマッチングボードに記入する。
- ③ グループからの報告や、終了予定時刻前に状況把握の連絡を行い、状況についてマッチングボード（資料編 NO.202）に記入する。



マッチングボード

- ④ 継続、繰り返しニーズの場合、派遣人数、資材が適切か確認するとともに、現地に行き進捗状況を確認する。

(6) 活動報告書の受領と活動グループの帰所確認

- ① グループリーダーに全員が帰所したか確認する。
- ② 活動を記入したボランティア指示書兼活動報告書（資料編 NO. 2）を受領する。
- ③ リーダーから活動状況・依頼ニーズの進捗等聴き取り、完了、未完了（継続）、新規ニーズを把握する。新規ニーズの場合は、報告書に記入しニーズ班に伝える。
- ④ 全てのグループの帰所を確認し、帰所していない場合はリーダーと連絡確認を行う。

★物品等

	用 品
1	送迎車両運転手等連絡先一覧
2	ボランティアに行く前に（資料編 NO. 9）
3	依頼者へのご案内（資料編 NO.10）
4	ホワイトボード（マッチングボード（資料編 NO.202））
5	付箋（名前・携帯電話）
6	文房具（ボールペン、マジック、ガムテープ）
7	トランシーバー
8	携帯電話
9	拡声器
10	車両
11	立て看板（オリエンテーション会場）

⑦資材班

★役割

・ボランティア活動に必要な資材等の、調達とボランティアへの資材等の貸出し、在庫管理を行う。

★活動内容・手順

(1) ボランティアへの資材の受け渡し

- ①グループリーダーが提示した、ボランティア指示書兼活動報告書（資料編 NO.2）に基づき必要資材を確認する。
- ②資材の使用方法はじめ、帰所後には必ず資材班に戻すことなど注意事項を説明する。

(2) 活動終了後の資材の管理

- ① ボランティアから資材等を受け取る。
- ② 資材等の在庫管理、不足する資材の調達を行う。

※在庫管理をスムーズに行うため、資材、物品を種類ごとにわかりやすく整理する。

★物品等

	用 品
1	文房具（ボールペン、マジック、ガムテープ）
2	立て看板（資材置場）

2. 経費

9,957,939 円

（運営費 2,379,881 円＋市受託金 7,467,902 円＋日赤村上市地区災害積立金会計 110,156 円）

(1)運営費

収 入

単位：円

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	説 明
1 活動拠点事務所支援金	3,000,000	2,379,881	620,119	活動拠点事務所支援資金（新潟県共同募金会）
2 市受託金収入	7,467,902	7,467,902	0	市受託金
	10,467,902	9,847,783	620,119	

支 出

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	説 明
1 人件費	7,467,902	7,467,902	0	運営スタッフ人件費等
2 備品消耗品	1,700,000	1,418,055	281,945	看板、資機材、医療用品、事務用品等
3 委託費	300,000	239,912	60,088	車両運転、仮設トイレ等清掃、可燃不燃物収集

4	車両費	400,000	261,020	138,980	ガソリン・軽油代、洗車代等
5	賃借料	300,000	246,477	53,523	コピー機、トランシーバー、扇風機
6	通信運搬費	200,000	14,880	185,120	物品運搬費等
7	印刷製本費	70,000	179,777	△ 109,777	コピー代
8	謝礼金	20,000	18,000	2,000	講師等謝礼
9	手数料	10,000	1,760	8,240	送金手数料
		10,467,902	9,847,783	620,119	

(2)日赤村上市地区災害積立金会計

110,156 円

(炊き出し材料等経費、ボランティア活動清涼飲料水等)

3. 資機材・車両

(1)資材(NSVN、市より)

品名	使用数	品名	使用数
一輪車	30	バケツ	50
スコップ	200	土のうスタンド	15
ジョレン、くわ	34	フネ	6
十能	30	水用ポリタンク	10
移植コテ、熊手	20	コンテナ	5
ほうき、竹ほうき	60	サーキュレーター	10
ちりとり	30	高圧洗浄機	10
手箕	50	軍手	大量
デッキブラシ	30	防塵マスク	大量
スポンジ	大量	土のう袋	大量
水切りワイパー	60	養生シート、テープ	大量
パール	20	モップ	10

(2)機材

品名	数量	有償・無償	種別	提供先
電話機(5回線)	5			市手配
コピー機	1			市手配
コピー機	1	有償	リース	
プリンター	1	無償	レンタル	
パソコン	1	有償	購入	
パソコン	5		所有品	社協
冷蔵庫(大型)	1			市手配
冷蔵庫(小型)	1		贈呈	民間企業団体
冷凍庫	1	有償	購入	
トランシーバー	7	有償	レンタル	

携帯電話	6	無償	借用	災害支援プロジェクト会議
看板	9	有償	購入	
ウォークサーバー	2	無償	借用	いわふねJC
大型扇風機	4		贈呈	民間企業団体
高圧洗浄機	4	無償	借用	三条社協
高圧洗浄機	4	無償	借用	長野県社協
テント		無償	借用	いわふねJC他

(3)車両

車種	数量	有償・無償	種別	提供先
軽トラック	1	無償	借用	災害ボランティア団体
2tトラック	1	無償	借用	災害ボランティア団体
マイクロバス	3			市手配
マイクロバス	1	有償	借用	
5tトラック	1	有償	レンタル	
マイクロバス	2		所有車両	社協
ライトバン	3		所有車両	社協

4. 支援金及び支援物資

(1)支援金 961,250円(8件) 災害VC活動記録集作製費等

(2)支援物資 飲料、タオル、雑巾、マスク、軍手、ビニール袋、土嚢袋、消毒液、保存食等。

北は北海道、南は九州まで全国の皆さまからたくさんの真心をいただきました。

5. 災害VC運営スタッフ協力団体

いわふね青年会議所、新潟県社会福祉協議会、新潟市社会福祉協議会、上越市社会福祉協議会、三条市社会福祉協議会、新発田市社会福祉協議会、小千谷市社会福祉協議会、五泉市社会福祉協議会、阿賀野市社会福祉協議会、魚沼市社会福祉協議会、胎内市社会福祉協議会、日本赤十字安全奉仕団、にいがた災害ボランティアネットワーク、災害NGO結、ピースポート災害支援センター、長野県社会福祉協議会、岡山県倉敷市社会福祉協議会、災害ボランティア活動支援プロジェクト会議、全国災害ボランティア支援団体ネットワーク、サイボウズ株式会社、NPO法人ふるさと未来創造堂

6. 振り返り(評価・課題等)

(1)設置準備

①発生直後の対応状況	・8月4日午前8時、社協災害対策本部会議(会長、副会長、事務局長、課長、参事)を開催し、職員の安否確認実施・報告、災害VC従事可能職員のリストアップを指示、日頃から課内での連絡体制が取れていることから素早く対応できた。
------------	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・8月4日は、市福祉課が避難所等の対応で災害 VC に関しての情報連絡が遅くなることが予想されたので、災害 VC と連携のため社協職員1名を市福祉課へ派遣し、市の情報収集や災害 VC の情報提供を行った。(2日目以降は連絡がうまく取れるようになったため派遣を中止)
②災害 VC 設置に向けての動き	<ul style="list-style-type: none"> ・災害発生直後に、市福祉課と社協で協議して災害 VC 設置を決定した。 ・その後のミーティングで市福祉課、県社協、NSVN 理事長と社協で協議し準備を進めた。 ・NSVN 理事長から市福祉課職員に国の災害予算について話をしてもらい、経費負担の理解や協議が進んだ。 ・村上市とは、災害時相互協力協定が未締結だが、災害 VC の各会議やミーティングに市福祉課も参加、役割分担等決定しその後の設置準備もスムーズに行えた。 ・市と協定締結を進め、被害状況、被災者支援、復旧作業等の情報共有ができるよう協議を進める必要がある。
③活動開始に向けた準備	<ul style="list-style-type: none"> ・いわふね JC から協働運営の申し出があり、運営スタッフとして準備段階から参加してもらった。 ・災害 VC 設置の広報について、社協からの SNS 発信のみでなく、市の一斉メール配信サービス(むらかみ防災・防犯情報ネット)を活用した。 ・法人職員は最小限(1～2名)の職員を通常業務としたため、通常業務職員、災害 VC 従事職員ともに休日確保が困難だった。 ・平時から災害 VC 開設時の職員体制を決めておくことが必要である。 ・災害 VC の電話、コピー、机、いす、パネル等物品は市が準備することになった。会場移転にあたっては、机やパネル等の準備は市が実施した。
④新型コロナウイルス感染症対策	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症第7波の対策強化中だったため、ボランティアの募集範囲、ワクチン接種、検温・健康チェック表項目等については、市(福祉課、保健医療課)と協議し判断した。 ・受付時、健康チェック表を記入してもらい検温を行った。 ・バスで来た団体については、バスから下車せずに、車内で検温・健康チェックを行った。(受付時に感染症が疑われる場合は、その団体のボランティア活動を遠慮願うため)

(2)運営

①活動の範囲	<ul style="list-style-type: none"> ・個人宅、飲食店等店舗・業者、作業場、車庫等に対応、ニーズが多い時は高齢者・障がい者宅等を優先する形で活動した。神社・側溝や墓地など集落共有の場所や住居以外の敷地内(庭・樹木地他)の活動、ハウスなど農地については、コア会議で優先度、活動の可否を協議した。 ・災害 VC 開設した時点は、多くの依頼者宅にボランティアを派遣する考え方で進めた。(そのため当初は、1世帯当たり少人数の派遣となった)
--------	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの参集数に左右される部分はあったが、災害 VC の閉鎖までにニーズ依頼のほとんどを完了することができた。
②協働の体制	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時相互支援協定を締結しているいわふね JC、県社協が素早い協働体制をとってくれ、災害 VC の準備や運営ができた。 ・市福祉課が会議や毎日のミーティングに参加し、情報の共有化を図ることができ、要望等も協議して対応することができた。 ・いわふね JC、県社協が県内関係団体にボランティア要請をしてもらうことで、多くの団体ボラを集めることができた。 ・市内消防団の組織的なボランティア活動への参加や、市内 NPO 団体 1 団体から運営協力の申し出があり活動してもらった。 ・日赤、民生児童委員とは日頃の連携を活かした活動ができた。 ・怪我や熱中症等緊急時対応を行うため、社協が直接依頼し看護師を常駐させたが、確保が難しくやむなく不在の日もあった。市や医師会等と連携について検討する必要がある。 ・今回の運営は社協職員が中心に行ったが、市内の団体やボランティアを活用した運営を行う必要がある。 ・運営やボランティア活動に市内の団体が少なかったことから、災害時に連携できる団体を検討し、平時からのネットワークを築くことが急務である。
③支援ニーズの把握	<ul style="list-style-type: none"> ・迅速・的確なマッチングに繋げるために、被災者からの一番目の窓口となるニーズ受付の確認事項など詳細な電話対応マニュアルの整備が必要である。 ・電話で受けた依頼を、災害 VC で対応できるのか判断するため現地調査に出向いた。その際、技術系ボランティアと共に行くことで依頼を断るケースが減り、ニーズとして拾うことができた。 ・ニーズについての再依頼、継続、取りやめ、完了の記録方法や集計方法についての統一が必要である。 ・「被災地区長宅への訪問」、「8/22～28 民生児童委員によるニーズ調査」、「9/1 第 2 回災害 VC 周知活動（ポスティング）」を行い、声を上げられない方、若い世帯へもニーズの掘り起こしを行い、実際のニーズの他、市への要望、心の不安、お金の心配等幅広い声に応えることができた。
④ボランティア受付	<ul style="list-style-type: none"> ・個人ボランティアは、当日直接来所、検温、受付票・健康チェック表の記入、ボランティア保険の加入、名札の記入等あり集中する時間帯は混雑した。 ・期間途中で、受付を「初回」「2 回目以降」と区別することにし、スムーズな流れになった。 ・団体受付は事前予約としたことで受付がスムーズだった。 ・ボランティア保険については、Web 加入を推奨したが特に高齢ボランティアには敬遠された。 ・学生のボランティア保険料については、市が負担することになった。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 迷惑ボランティア対応事例の事前レクチャーがあれば安心して従事できる。
⑤オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県内社協スタッフに担っていただき、地元社協職員は全体把握に徹した。 ・ 夏季、猛暑での活動だったため、熱中症に備えた赤十字安全奉仕団の活動は効果的だった。 ・ オリエンテーション時にボランティアに渡すチラシが不足しがちだった。固定的なチラシは余裕をもって印刷し、送り出し終了後に残数をチェックし、翌日準備を徹底すべきだった。 ・ 「受付～オリエンテーション」でボランティアに配布するチラシが多すぎるので厳選する必要がある。
⑥マッチング	<ul style="list-style-type: none"> ・ 送り出しを含め地元社協職員が担った。 ・ 要請票に記載の内容だけでは詳細が把握できない場合、現場確認を行った。現地活動のイメージができ、適切なマッチング（ボランティア数・資材・説明等）ができた。また、現場に足を運ぶことで新たなニーズの発見にもつながった（アウトリーチ）。 ・ 団体ボランティアや大人数グループ（例えば10名以上）の場合は、マッチング場所を個人ボランティアと分ける方が混雑、混乱しない。 ・ あらかじめ活動のマッチングを行い事前連絡することができ、受付がスムーズだった。 ・ 活動時のボランティアリーダーの役割が明確にされておらず、適切な報告がされず帰宅した場合もあった。 ・ グループに属する個人ボランティアの氏名、そのグループの活動先が一目瞭然できる「派遣状況確認表」が必要である。 ・ 被災が大きかった集落については、個人からのニーズでなく、区長にニーズを把握してもらった。ボランティア活動については、区長が窓口となり、事前にボランティア数を区長に連絡し、ボランティア活動は自治会で采配してもらった（コミュニティマッチング）。
⑦資機材	<ul style="list-style-type: none"> ・ ほとんどの資材をNSVNから借用することができ、大変助かった。 ・ 借用・返却時は関川村社協VCと協働、いわふねJCには車両等労力を提供してもらえた。 ・ 専門用語的な資材が多いので、資材の写真と名称、用途等を記載した一覧表を作成しすべての班で把握しておく必要性を感じた。 ・ ボランティア活動の内容が変化していくのに合わせ、資機材が変わる。ニーズ受付時やボランティア活動終了後の報告時での聞き取りなどにより、必要な資機材を把握する体制が必要である。 ・ 土嚢袋など大量に必要な消耗資材については、市に連絡し調達を図った。
⑧送迎車両	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社協のバスのほか、不足分は市でボランティア送迎バスを手配してくれた。 ・ 個人ボランティア等が自家用車を使用する場合もあり、被災地近くの小学校

	(夏季休業中)・JR・企業・団体の駐車場やトイレを借用することができた。
⑨活動報告	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動報告書を提出せず、忘れて帰った事例が2~3件あった。 ・ボランティア活動報告書は、完了済の有無、継続の有無、新規ニーズ発生の有無などニーズ班が明確にチェック・確認できるように改善する必要がある。 ・報告項目についてボランティアが記載するには難しいものがあるので、報告書の様式の見直し、ボランティアリーダーへの役割説明のマニュアル等の整備が必要である。

(3)外部支援者

①県内社協職員応援派遣受入れ	<ul style="list-style-type: none"> ・県社協調整のもと、県内社協から多くの運営スタッフの派遣を受入れた。 ・同社協から連日派遣の場合は、派遣社協内で引継ぎをしてもらえ助かった。 ・どの班に配属されてもスタッフとして動けるよう「応援スタッフ用マニュアル」の整備が必要である。
②技術系ボランティア、NPOとの連携	<ul style="list-style-type: none"> ・「災害NGO結」の支援をもらい、重機等技術系団体の調整、水害特有の技術を伴う活動についての『技術系窓口』を担ってもらい、ニーズを断ることなく対応できた点は非常に有益だった。 ・技術ニーズ対応後、一般ニーズ対応できる場合もあり(床板剥がし後の泥出し等)、マッチングの見通しが立てられたので良かった。 ・技術系ボランティアと市(市建設課)と連携が図られたケースもあった。
③民生児童委員との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・災害VCから要請し、災害VCに周知、ニーズの掘り起こし、傾聴を目的とした訪問を行うことを、地区民児協会長会議(8/17)で決定した。 ・内容詳細は、資料編 NO.301~304

(4)情報発信等

①ボランティア活動件数集計・報告等	<ul style="list-style-type: none"> ・日々のボランティア活動人数、活動件数については、定時に県社協への報告を「キントーン」により本部で行った。 ・当初設定したニーズ数の集計方法が、県社協や市への報告すべき項目等と違ったため、集計方法の見直しを行うことになり、業務が増加した。 ・キャンセルの取り扱いなどの集計方法や県社協・市福祉課への報告項目を事前に決めておく必要がある。
②活動等に関する広報	<ul style="list-style-type: none"> ・社協ホームページ 従来からあるもののトップページに「災害VC開設のお知らせ」をはじめ固定的な、日々変わらない情報を掲載した。 ・フェイスブック サイボウズ社の協力により、8月10日に「村上市災害ボランティアセンター」の「フェイスブック」を立ち上げ、日々の活動の様子、天候による活動の可否、ボランティアや被災者からの声等タイムリーな情報発信を行った。

	<ul style="list-style-type: none"> ・その他 災害 VC 開設については、ホームページ、市メールマガジン、被災地集落への区長宅訪問で周知を図った。 開設 2～3 週間後には、8/22～28 民生児童委員によるニーズ調査、9/1、第 2 回災害 VC 周知活動（ポスティング）を行い、周知を行った。 ・災害 VC 開設については、様々な広報媒体のほか関係団体を活用した周知等、なるべく早くすることが必要である。 ・情報はいくつもの媒体で発信した方が良く、地元紙・TV 局などマスコミを活用することも効果的である。
③ICT の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・サイボウズ社の「キントーン」の活用は、県社協への報告にとどまった。平常時から情報通信技術を活用し、どんな機能があり、どんな活用が出来るのかを知らないで運用出来ない。 ・災害 VC のネット環境（セキュリティ、速度、経費）も関係するが、日頃から業務効率を考え ICT の活用にも目を向けていく必要がある。 ・インターネットによるゼンリンの地図活用を図ったが、インターネット環境が悪いため時間がかかるうえ、必要な倍率での出力が難しく、住宅地図をコピーして使用した。 ・今回は電気や電話回線等支障がなかったが、電気などダウンした場合は、ライフラインはじめコピー機等の制限が発生する。制限を想定した訓練も必要である。

(5)縮小・むらかみ見守り支援センター移行

①閉鎖に向けた準備	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア人数が減少してきた災害発生から 2 週目から閉鎖に向けて検討を始めた。 ・閉鎖の判断材料は、①ニーズの見通しと完了見込み、②被災の大きかった地域の復旧状況であり、この把握のため民生児童委員によるニーズ調査や被災地区長への聞き取りを行った。 ・その後、関係者会議を開催し、ニーズ数（予測）、被災の大きい地域の復旧状況、ボランティア参集数（予測）、ニーズ完了見通しを考慮し、週末型を経て段階的に 9 月末に閉鎖することとした。 ・閉鎖時に残っているニーズについてのボランティア活動は、数も少なかったことから「むらかみ見守り支援センター」に引き継ぐこととした。 ・被災地区長には、それぞれ社協職員が訪問し、閉鎖を判断した経緯と、引き続き「むらかみ見守り支援センター」でボランティア活動を継続すること等を丁寧に説明した。 ・社協ホームページ、フェイスブック、市メールマガジンで、「9/12～週末型ボランティアへの移行」、「9/30 災害 VC の閉鎖」、「10/1 むらかみ見守り支援セ
-----------	---

	<p>ンターへの移行」を周知した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8 月末には「①ニーズ完了は8～9割程度、②団体ボランティアも個人ボランティアも少なくなっている」ことから災害 VC 閉鎖に向けて、地元ボランティア確保の取り組みとして、市内スーパーで「ボランティア募集」チラシ配布活動（9/13）を行った。
②閉鎖直後の対応状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害後の復旧、生活支援は、市各課にわたることから「むらかみ見守り支援センター」事業について、関係部署と連携体制がとれるよう研修会（10/14）を開催した。 ・ ボランティア活動について、ボランティアを確保するためGoogleフォームを活用して登録制とし、募集も行うことで効果的にマッチングができた。
③生活支援相談員の設置	<ul style="list-style-type: none"> ・ 村上市からの委託事業である「むらかみ見守り支援センター」は、生活支援相談員2名（のち12月21日から3名）配置で、①被災者の見守り・相談支援等、②被災者支援従事者の資質向上等を図る事業、③その他被災者の孤立防止を図る事業が主な業務である。 ・ 具体的には、①罹災証明交付全世帯（1,310世帯）への訪問等によるニーズの把握、②応急仮設住宅等への巡回訪問・相談、③研修会の開催、④イベント等の窓口・調整等、⑤関係市機関との連絡調整、⑥災害 VC 事業などの業務である。

第4章

1. ご支援いただいた皆様からのメッセージ

※メッセージは令和5年3月に寄稿していただいたものです。

「令和4年8月東北水害 村上市災害ボランティアセンター記録集によせて

にいがた災害ボランティアネットワーク
理事長 李 仁 鉄

高根、下鍛冶屋、坂町駅前、花立、梨木、貝附、川部、小岩内…この災害がなければ、多分一生知ることのなかった地域の名前を、すっかり覚えてしまいました。

災害はとても不幸なことで二度と経験したくないことではありますが、それでも私の中では、大切な方々との思い出となっています。そして、今回の支援活動は、ひとえに、地元の皆様方の献身的なご努力と、地域を大切に思う熱い思い、被災した方々へ向ける優しい眼差しの賜物です。

まずはここまでのご尽力に、敬意を表します。

とはいえ、災害からの復旧・復興は第一コーナーを曲がったところではないでしょうか。

被災された方々にとっては、生活再建に向けて長い道のりが待っています。社協、市役所をはじめとする地元の皆様、その道のりを、どうぞご自身の心身の健康にもお気をつけ頂き、被災された方々とのあゆみを進めてください。ソトから関わらせていただいた私たちも、あゆみを共にしたいと思っています。

「活動を通じて」

一般社団法人いわふね青年会議所
理事長 佐藤 勇介

平素より一般社団法人いわふね青年会議所（以下 いわふねJC）の活動に対し、皆様にはご理解とご協力を賜りまして厚く御礼申し上げます。

私たちいわふねJCは、8月の豪雨災害に際しまして災害ボランティアセンターの運営協力、県内外の青年会議所のボランティア活動の窓口や私達自身も災害ボランティア活動を行いました。

どれもこれも初めての経験で、皆様にはご迷惑をおかけした部分もあったかと思えます。いわふねJCは世界にネットワークを持つ団体です。今回、そのネットワークを生かした運営協力や、広報によるボランティア活動者の確保など、少しはご協力できたのではないかと思います。早急な復旧対応が急務の中で、1人1人の1日でも早く！少しでも早く！助けたいという一心な思いが地域一体となった活動に繋がったのではないのでしょうか。ただ、行政区による弊害も感じたことは確かです。今回の教訓を生かし今後の対策を十二分に備えなければならないと強く感じました。

被災された地域の方々は今後が本当の復興となります。私たちいわふねJCも社会福祉協議会様と連携し今後も手助けしていきたいと思えます。一日も早い、地域復興を願っています

「地域のネットワークの大切さ」

災害NGO 結～yui～ 代表 前原 土武

水害後の壁床の撤去・乾燥には、技術ボランティアが必要とされます。ひのきしん隊や愛知人などが活動してくれたので、我々はその活動調整を担いました。

加えて復旧活動で大きな力になったのは、消防団の力でしょう。今回の村上市での消防団と災害VCとの連携は、今後の被災地復旧の参考事例となる気がしています。投げかければ協力してくれる素地が村上や周辺地域にあることや、災害VCの中で見えた社協のネットワークの強さは、この先長い復旧復興の道を支えてくれるはずです。

小岩内地区の避難指示解除の見通しがたったようですが、家を解体した方などが自宅再建できるのはまだまだ先でしょう。浸水被害の家屋復旧も、まだサポートが必要な世帯があるはずです。地道にコツコツ無理のない範囲で、地域の力を活かして復旧復興が進みますように。ときどきその様子を見にお邪魔するつもりです。

「支援活動を振り返る」

災害ボランティア愛知人 代表 赤池 博美

にいがた災害ボランティアネットワークの李氏と連絡を取り合いながら、支援先を新潟県村上市に決定し、8月6日から支援活動をスタート、約2ヶ月間、メンバー400名で100件近くのニーズを完了することが出来ました。

広範囲に被害が出ており、山間部では土砂災害、街中では内水氾濫、同じ市でも場所によって復旧作業の違いがありました。浸水被害に遭われた地区は割と新しい住居が多く、ほとんどの家屋に断熱材が入っており、家屋復旧をどう進めていって良いのか困惑されていました。そんな場面で、私達の経験・技術で床下の状態確認や壁を切り浸かった断熱材の撤去等を行いました。

社協職員さんたちも、被災者を思うだけでなく、私たち支援者に対しても気を使ってくださり、素敵な方ばかりでいつも元気をいただきました。

災害は無いに越したことはありませんが、いつ、どこで災害が発生してもおかしくない日本。この災害を乗り越えたからこそ、経験と知恵を全国に発信し続けていただけると嬉しいです。

「たすけあいの輪の一員として」

天理教ひのきしん隊新潟教区隊長 吉澤 清人

連日の猛暑、被災者の疲労された顔、そして混沌としたボラセンの雰囲気は昨日のここのように思い出せます。

天理教災害救援ひのきしん隊は、令和3年に結成50周年を迎えました。我が隊は、各都道府県に拠点を置く全国組織です。この度の水害発生直後には、以前から親交のある社協職員さんから「大規模で断水している。どうにかできないか？」と連絡を受け、即応したのを皮切りに村上、関川の各所において途べ411名で救援活動しました。

ボラセン運営の皆さんは、初めての大規模災害にもかかわらず、被災者のニーズに寄り添っていました。その姿は現場で動く我々の大きな力になり、改めて「たすけあいの輪」に入れていただいたことを感謝いたします。

災害は無いことに越したことはありませんが、村上社協の皆さんが経験されたことを、次に必要とされる場面で生かされることを願っています。

「災害ボランティアに参加して」

村上地域まちづくり協議会 会長 木村 三男

去る8月3日からの豪雨により、数多くの地域で被害が発生しました。

当村上地域まちづくり協議会として災害ボランティアに参加することは特別な行動ではなく、ごく自然な行動でした。議論している場合でなく、即行動として立ち上がりました。一回目は、坂町地区へ、二回目は花立地区、三回目は川部地区へボランティアとして延べ38名参加しました。どの地域も被害の甚大さには驚かされました。猛暑の中で頑張ってくれたメンバーのみなさんに感謝しております。それ以上に被災された皆様には、一日も早い復旧、復興を願っております。特に小岩内の皆様は、今も仮設住宅での生活を余儀なくされておられます。

豪雨は、今後も避けられないかもしれませんが、同じ被害を繰り返し受けない抜本的対策が望まれます。これからも、お互い支いあえるまちづくりを目ざしましょう。

「県北豪雨災害ボランティアに参加して」

連合新潟下越地域協議会 早川 英雄

連合新潟では、8月11日、12日、27日、28日の4日間で、合計約310人が村上市内において災害ボランティア活動に参加させて頂き、民家の泥の掻き出しや、土嚢の運搬などの作業を行わせて頂きました。

ボランティアセンタースタッフ様が連日の対応にもかかわらず、疲れを見せることもなく、被災者様のニーズの把握、ボランティアの割り当て・人送、的確な作業指示等に感銘を受けました。

また、被災者様にあっても、先の見通せない中、懸命に復興・復旧に向け、汗を流す姿に、ボランティアとして逆に勇気を貰うとともに、その前向きな姿に人間の力強さを感じた次第であります。

大変貴重な経験をさせて頂きありがとうございました。

「災害支援プロジェクトチームの支援活動を振り返って」

長野県社会福祉協議会 山崎 博之

災害ボランティアセンターは、村上市社会福祉協議会の総合的な姿勢がとても印象的でした。部署を横断して全局体制で運営に取り組むなかで、職員の皆さんの雰囲気良かったことで連携団体や応援社協の皆さんがその輪の中に入りやすかった要因であったと感じます。本県から参加されたボランティアの皆さんもセンターの雰囲気が良かったことで活動の満足度が高まりました。

また、職員の皆さんが被災地域に頻繁に足を運び、被災者宅を訪問する姿勢は、被災者ニーズを的確につかむとともに被災地域からの信頼を得て、地域連携につながっていったと思います。

街場の浸水エリアの被災世帯の多さと、土砂被害のあった郊外の点在する地域と、さらには、進入禁止エリアの存在と様々な対応の難しさがあったことと思います。そして、そのことは、その後の「むらかみ見守り支援センター」にも続いているのかもしれませんが。隣県同士ですので、復興への歩みに向けて引き続き関わらせていただけたら幸いです。

「民生児童委員として…」

民生委員児童委員協議会連合会長 菅原 実雄

8月3日から降り続いた雨は甚大な災害をもたらしました。

5日朝、村上社協にかけつけてみると被害の状況は何もわからず、大変なことになっている事だけは感じられました。そうこうするうちに段々と情報が入ってきて、民児協として何ができるのだろう。何かをしなければと思いをめぐらすときに、荒川地区で水が出ない！飲み水が無い！との事。幸いにも水道局が飲料水を配給しており、地区民生児童委員を動員し、荒川地区民生児童委員の情報をもとに、給水施設まで行けない人を対象にペットボトルの飲料水を配りました。

この行動に際し、早く取り組んだことと協力してくれた委員の皆さまに感謝いたします。

最後に被災された方々にお見舞いと、一日も早い復旧を願っています。

「災害現場での赤十字ボランティアの使命」

赤十字安全奉仕団 齋藤 敏郎

災害支援を行う上で、天候等の気象条件に影響を受けやすいが、県北豪雨災害は厳しい猛暑が続く中での支援活動となった。

被災者は流入土砂との闘いに加え、暑さの中で果てしない復旧作業が続き、ボランティアの皆様も容赦のない猛暑に襲われました。

私たち赤十字防災ボランティアの任務は、被災者とボランティアの傷病を防止し、円滑な復興支援に結実させる事です。真夏の災害では特に熱中症予防に力を入れます。ボランティアへの注意喚起は勿論、派遣現場での安全管理や依頼された被災者への直接的な支援も重要です。作業中に応急手当を行った場面もありました。現場主義で予防に努める手段として実施した、冷やシタオルや飲み物の配布は熱中症対策として、有効な支援となり、真夏の災害支援モデルケースとなりました。

それを可能にした、村上市社会福祉協議会の柔軟な運営体制に深く感謝申し上げます。

「初めてボランティア活動に参加して」

村上高等学校2年生 佐藤 真太郎

私はこの活動に参加して良かったと思いました。ボランティア活動に参加したことがなかったので、いい経験になりました。

被害は想像以上のものでした。私が行った地域では泥がたまっていたり、水が家の中まで入ってしまった家もありました。私は特に被害の大きかった家に行きました。午前中は水につかってしまった畳や家具や洋服を処分するのを手伝いました。畳はとても重くて二人がりで運びました。午後からは倉庫の中の泥を取る作業をしました。自分の家がこのような被害にあったらと思うと言葉が出なかったです。

このボランティア活動を通して、協力することの大切さを学ぶことができました。とても疲れたけど、それ以上の達成感がありました。ボランティア活動はいいことばかりです。これから先、今回のようなことが起こったら、自分から進んで参加したいです。

「村上市災害ボランティアセンターでの活動を通して」

倉敷市社会福祉協議会

倉敷市真備支え合いセンター 山下 雅光

倉敷市は、平成30年7月豪雨では真備地区を中心に甚大な被害を受けました。その時に全国の皆様からご支援をいただいたことに対する感謝を少しでも形にできればとの思いから村上市災害ボランティアセンターの運営に携わらせていただきました。

村上市災害ボランティアセンターでは、村上市社会福祉協議会として一つになり、住民の方々に寄り添う姿勢に、熱意と温かさを感じました。また、運営業務を丁寧に教えてくださるだけでなく、気さくに声をかけてくださることで仲間として迎えられていると感じることができました。さらにボランティアの方から「倉敷にも行ったよ。今どうなっている？」と声をかけていただけたことが励みになり、あの時からのつながりを感じることもできました。

被災者支援は復旧・復興、そして平時の取り組みへと一体的につながっていきます。これからも同じ社協職員として切磋琢磨していきましょう。今後ともよろしく願いいたします。

「災害ボランティアに参加して」

新潟市南区 秋山大空・秋山未来

村上市の災害ボランティア活動に参加することにしましたが、最初は誘われたから行くと言ったため、あまり乗り気ではなかったんです。ですが、現場に行ってみてこういった活動の大切さ、大変さを感じることができました。

活動では、水害で被災されたお宅の床下の泥上げをしました。とても疲れるし、辛いし、大変でした。が、現地の人の笑顔はあたたかく、やり切った後の達成感はとても大きく、忘れられないものでした。そしてボランティアに参加する人は全員とても優しく、気さくでいい人でした。ボランティア活動に参加しようかためらっている人も、きっと一度参加してみると、同じ思いになると思います。

最後に、復興にはまだ時間がかかると思いますが、被災された皆様に応援しています。

「災害ボランティア活動を振り返って」

新潟市 渡邊 豊

豪雨災害が発生し、災害ボランティアセンターが開設されてからは、ほぼ週に1回伺い、荒川地区に仮設住宅が設置されてからは、交流・炊き出し、訪問などで数回伺っています。

坂町地区で、災害後の最初の休日に、多くの人達が屋外に出て片づけ作業を熱心に行っていた姿。土石流の被害に遭った小岩内地区の惨状、その後、仮設住宅に移り住み、これからの生活のことを考えている人達…。様々なことが思い出されます。

現在は、見守り支援センターが、被災された人達の生活の支援を継続的に行っています。

生活の再建や、地域の復旧・復興には歳月がかかると思いますが、諦めず、時には楽観的になって取り組んでいただければと思います。

被災されたみなさん、支援をしているみなさん、健康に留意されお過ごしください。

「地域や関係者との連携・協働による被災者支援活動」

新潟県社会福祉協議会

今回の災害において、被害に遭われた皆様に心よりお見舞い申し上げます。

本会では発災後、村上市社協へ先遣隊を派遣し、災害ボランティアセンターの設置支援を行い、その後は運営支援のため、県内市町村社協、県内外の関係団体の協力のもと、継続的な職員派遣を実施しました。

村上市社協が、主体となり迅速な支援活動が実施できたのは、平時から市役所はじめ関係団体と連携し取り組みを進めてきたこと、令和元年の山形沖地震での対応経験があったからだと思います。

また、支援活動においても、住民同士の助け合いや職員一人ひとりが被災者に寄り添い丁寧な聞き取りを行うなど、これまで社協が積み重ねてきた地域との関係性や地域福祉活動が活かされたと感じました。

本会といたしましても、被災者が一日も早く日常生活を取り戻せるよう、生活支援相談員による見守り活動を行うとともに、住民主体による災害にも強い地域づくりを村上市社協と連携し進めてまいります。

「メッセージ」

ボランティア参加企業

弊社では、8月9日から約1か月半に亘りボランティア活動に参加させていただきました。

最初の頃は、家屋や庭の泥だしが中心で、とても重労働でしたが被災された皆様から温かい言葉をいただき、時には逆に元気をもらいながら活動させていただきました。

今回の活動は、我々にとってとても貴重な経験であり、大きな財産になっております。

豪雨災害から半年が経ちましたが、まだまだ不自由な暮らしをされている方が多くいらっしゃると思います。1日も早く、被災地の皆さんが元の生活を取り戻せるよう今後もできる限り協力していきたいと思っております。

最後に、ボランティアセンターの立ち上げや運営など、手探りの中で地域の皆さまのために活動された社会福祉協議会の皆さまに、心から敬意と感謝申し上げます。

2. ボランティア活動参加団体

★技術系

ロハス南阿蘇たすけあい、災害ボランティア愛知人、オープンジャパン、NGO 災害救援チームフェニックス救援隊、DRT JAPAN、天理教災害救援ひのきしん隊、BOND&JUSTICE、災害支援団 Gorilla、ボランティアチーム援、シャンティ国際ボランティア会

★一般

【村上市】村上市消防団、村上地域まちづくり協議会、神林地区まちづくり協議会、村上商工会議所青年部、村上高校（ラグビー部、柔道部、卓球部、野球部）、村上桜ヶ丘高校職員、村上エレテック、ビューティー&カイロプラクティックのぞみ

【新潟県】新潟北高校野球部、新発田中央高校野球部、北越高校サッカー部、新潟青陵大学短期大学部ボランティアセンター、新潟医療福祉大学、国際総合学院、長岡崇徳大学、日本自然環境専門学校、雪国 JC、五泉 JC、燕三条 JC、新発田 JC、新津 JC、新潟 JC、ダムズ、ジブラルタ生命、新潟防災シニアリーダー、アルビレックスチアリーダー、新発田市民児協、連合新潟、ホライズン、NSG カレッジリーグ、ミツキ工業、三条ローターアクト、魚沼交流ネットワーク、見附市役所まちづくり課、ナマラエンターテイメント、自治労新潟、キッチンカー、東京電力、リンコウコーポレーション、下越北地区郵便局長会、聖籠町消防団、日本海洋石油資源開発、ダイナム、新潟県民生同盟連盟、新潟県生協連、Café flat bean、おうちコーヒー、小千谷 JC、柏崎 JC、加茂 JC、長岡 JC、白根 JC、見附 JC、魚沼 JC、上越 JC、十日町 JC、中条 JC、橋尾 JC、K.I 架設工業（株）、聖籠町災害ボランティア団体、奥那城初穂、（株）第一実業、新潟防災士シニアリーダー、生活協同組合コープデリにいがた、困っている家族を支える会、刈羽村社会福祉協議会、新潟県鍼灸マッサージ師会、梅谷守後援会、澤野修、福田道路（株）、明治安田生命、MY おせっかい新潟ボランティアグループ

【長野県】チームながでん、長野市災害ボランティア委員会、飯田市連合青年団、チーム小林、安曇野市社会福祉協議会、上田市社会福祉協議会

【山形県】ミウラカーズワン、南陽 JC

★ボランティアバス（受付団体名）

【新潟県】新潟県、胎内市社会福祉協議会、見附市災害支援ボランティア、小千谷市ボランティアセンター、湯沢町社会福祉協議会、新発田市社会福祉協議会、阿賀野市社会福祉協議会、新潟市社会福祉協議会、新潟市南区社会福祉協議会、長岡市社会福祉協議会、上越市社会福祉協議会、聖籠町社会福祉協議会、糸魚川市社会福祉協議会、三条市社会福祉協議会

【長野県】長野県社会福祉協議会、長野市社会福祉協議会、池田市社会福祉協議会、中野市社会福祉協議会、伊那市社会福祉協議会、飯綱町社会福祉協議会、

【山形県】南陽市社会福祉協議会

第5章

1. 写真で振り返る災害VC活動

8月5日 市社協災害対策本部・災害VC設置検討ミーティング



8月6日 災害VC開設準備 たくさんの資材が到着



8月6日 支援物資 飲料、タオルなどの物資がぞくぞくと・・・



8月7日 ボランティア受入れ開始

市内外から多くのボランティアさんが来てくれました



多くのボランティアさんによる復旧活動

炎天下の日も雨の日も……





スタッフミーティング、班長会議、コア会議

活動終了後の報告や反省





8月16日 災害VC引越し 神林農村環境改善センターからバルパーク神林へ移転



8月22日～28日 ニーズ調査 地域に密着した民生児童委員ならではの「戸別訪問」





講習会とボランティア講座

災害NGO結さんの技術講習会、雨天のときのボランティア講座

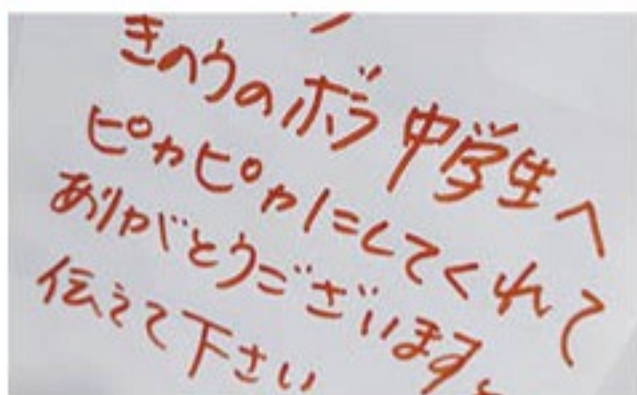


9月1日 ポスティング 9月13日 ボランティア募集チラシ配り



多くの感謝や激励のメッセージ

市内や各地から届いたうれしいメッセージ



R4 8月10日水 AM 10:00
 村上の方々御中
 インスタで運良く見る事が
 出来た。お
 表さの中 大変でした。お
 たいさ。お祈り。
 3完。お美味い。お祈り。
 どうぞ。

村上市広報FB読み取り。
 二度の災害。被災に覚悟を
 御見舞い申し上げます。
 東の6年前。本意の被災は
 (2011) 全国への応援。毎日
 献金。お祈り。お祈り。
 下。お祈り。お祈り。
 どうぞ。お祈り。お祈り。
 お祈り。お祈り。お祈り。



災害VC最終日 片付け終了すれば、これで災害VCは閉鎖です







**51日間お疲れ様でした。大きな力をありがとう！
これからもよろしくお願いします。**

2. フェイスブックで振り返る災害VC活動

★主な掲載情報

【8/10 活動報告】【対象範囲拡大】

ボランティア活動人数 133人（速報値）

活動開始4日目、日々運営の改善をスタッフで話し合っています。

ボランティアの対象範囲を「県北在住」→「県内在住」に拡大して、より多くのボランティアの皆さまと被災者支援ができるようによりスムーズな運営を心掛けてまいります。



[インサイトと広告を見る](#)

[投稿を宣伝](#)



【県内高速道路代が無料になります】

災害ボランティア活動に参加する際の県内高速道路料金が無料となります。

また、村上市災害ボランティアセンターから要請を行った団体に限り、全国の高速道路が無料措置の対象となります。

【支援物資】

香川県詫間中学校 生徒有志一同様から応援メッセージ入り土嚢袋が届きました！とても励みになります！ありがとう

【8/15の活動中止について】

8/15（月）は大雨が予想されるため、ボランティアの皆さまの安全を最優先に考え受付を中止させていただきます。

<ボランティアさんより>

この季節、スポーツドリンク、塩飴等必ず持参して活動してください。経験から頑張り過ぎて、地元の皆さんにご迷惑をかけることです。リーダーの指示に従い、こまめな休憩をとってください

<ボランティアさんより>

スタッフの皆さん気持ちが落ち着きませんがちゃんと休みとれていますか？普段の業務プラスαと長期的に成りかねませんので事務的にでもスタッフの皆さんがゆっくり休める日を設けてくださいね。皆さんが居ないと困る人がいますので🍀

【8/18 活動報告】

ボランティア活動総数70名。本日はあいにくの雨の中でのスタートでしたが、徐々に雨もあがり活動をしていただくことができました。まだまだ土砂や瓦礫をどかす作業もあり、技術系のボランティアさんが重機で活躍していただいています。床板をはがして、床下の泥だし作業も始まりつつあります。釘の踏み抜き、作業中のケガには十分に注意してください。ご自身で踏み抜き防止のインソールもご準備お願いいたします。

【8/20 受付の様子】

おはようございます。本日からボランティア募集対象地域



を近接県（山形県、福島県、群馬県、富山県、長野県）に拡大してお待ちしています！

【8/24 活動報告】

ボランティア活動数 31名「来れる時は来たいんだ」「もっと自分にできることをしてあげたい」「自分が被災した時も助けてもらったから」泥だらけになりながら、復興のためにご尽力いただき、本当にありがとうございます。倉敷市社会福祉協議会から応援に来てくださっていたおふたりとは今日でお別れ...大変お世話になりました！



【8/25 民生委員によるニーズ調査】

22日より高齢者等避難行動要支援者名簿世帯を対象に民生委員児童委員の皆さまによる訪問活動が行われております。

【8/29 活動報告】

本日は1日青空がつづき、久しぶりに気持ちの良いお天気のもと活動していただきました。最近、ボランティアを依頼された方からのお礼の電話が増えてきています。お力をお貸しくださったボランティアの皆さまにも、そんなお礼の声をお届けしたいと思い、ありがとうの声コーナーを設けました。ほんの一部ですが、写真にてご紹介したいと思います。皆さまの温かい気持ちと笑顔が被災された方にも届いています。

【9/1 センター休止】

おはようございます。本日はニーズ調査のための地域訪問をさせていただきます。そのため、ボランティアさんの受け入れはお休みさせていただきます。大変申し訳ございませんがご理解いただきますようお願い致します。明日9/2からは再開致しますので、是非またお力をお貸しください

【技術系サポーター募集！！】

村上市災害ボランティアセンターでは、災害後の家屋の復旧の知識をもって活動していただけるボランティアを募集します。技術系専門支援者チームがいる間に、一緒に学びながら活動してみませんか？

【9/3（土）～ 温泉無料のお知らせ】

村上市災害ボランティアセンターでボランティア活動をされた方を対象に市内入浴施設3か所が無料で利用できるようになります。ボランティアで疲れた身体と汗を流して帰りませんか？

＜ボランティアさんより＞

9/4にお邪魔させていただきました。台風の影響が心配でしたがお陰様で晴天の中、汗を流すことが出来ました。そんな中、メンバーの数人が活動の中で下記の感想を話してくれました。

私達が活動現場を去ろうとした時、地元のゴツイ男性の方々が満面の笑顔で両手を精一杯振って、深々と頭を下げて見送って頂いた場面に「感動」したそうです。その行為に「今までの疲れが次回の活動へのエネルギーに変わった瞬間でした！！」と話してくれました。スタッフの皆様や地元の方々の毎日の対応に感謝しております。ありがとうございました。

チームながでん一同

【週末型移行のお知らせ】【ボランティア登録のおねがい】

令和4年8月3日からの災害発生から一ヶ月が経過しました。

村上市社会福祉協議会では、「村上市災害ボランティアセンター」を立ち上げ、8月7日から市内外からのボランティアを受け入れ、これまでに累計3,000名を超える方に活動をしていただきました。

現在、泥出しや家屋の片付け等の復旧支援の活動依頼が減少してきており、これからの生活再建に向けてのお困りごとやご相談が増えてきています。これらの状況をうけ、災害ボランティアセンターの運営の見直しを行います。

9/12（月）以降のボランティアさんによる活動は週末型に移行し、併せてボランティア受付に登録制を併用させていただきます。

これまで同様、当日ご参加される方のほか、事前に活動日を決めておられる方は専用フォームにて登録していただけますとスムーズに活動に繋ぐことができます。

【9/10（土） 活動の様子】

本日は北越高等学校サッカー部の皆さま61名がボランティア活動に来てくださっています！炎天下の中、泥出し等の作業の他、地元の子供たちのサッカー教室のお手伝いをして下っています。

サッカー教室に参加した子供たちからは「楽しかった」「北越高校に僕も入りたい」といった声と笑顔があふれていました。

午後からもサッカー教室のメンバーも合流し、引き続き被災地での活動をしてくださいます。

【9/11（日） 活動報告②】

川部集落では、ほぼ全世帯が浸水被害に遭っています。

そのような中、集落のお宮さまの清掃（泥出し）を区長さんが呼びかけ、20名以上の住民さんが集まって作業されました。

そこにボランティアさんも加わり川部集落の皆さんとの共同作業となり予想以上のスピードでお宮さまの清掃を終えることができました。

集落の心の拠り所であるお宮さまがキレイになりました。

皆さん、おつかれさまでした😊

【総合相談会報告】

9/10（土）、9/11（日）の2日間、今回の水害で被災された方向けの相談会が開催され、村上市社会福祉協議会（村上市災害ボランティアセンター）も参加してきました。

お話しの中から、床下の乾燥やカビに対する不安、これまで手をつけられなかった場所の災害ゴミの搬出などのお困りごともあり、ボランティアセンターに繋がる内容もありました。

これらの相談は、ボランティアセンターで既に個別相談をさせていただいき、今後のボランティ



ア依頼に繋がるケースや新たなニーズも出ています。今週末のボランティア活動にもぜひ皆さまのお力をお貸し下さい！！

【週末のボランティア活動にご協力下さい】

今週より、村上市災害ボランティアセンターでは平日のボランティア活動から、週末に集中しての活動をお願いしております。

週末活動のボランティアさんの募集を強化するため、本日、市内のスーパーのご協力の下、社協職員及びいわふね青年会議所メンバーさんによる募集チラシの配布をさせていただきました。

今後も中長期的に支援が必要となりますので、地元村上市民の方のご関心、ご協力をお願い致します。ご自身はもちろん、ご家族や周りの方にも呼びかけていただければ幸いです。

【9/17（土）活動報告】

ボランティア活動人数 87名 週末型へと移行し、最初の土曜日でした。

多くのボランティアのみなさまにお越しいただき、泥だし、側溝掃除、技術チームとの協働をしていただきました。

投稿でお知らせしている通り、泥だしニーズが多くなっています。本日は3000枚以上の土嚢袋を用意しましたが、ボランティアの方の手によって、次々と土が詰め込まれていきました。

気温が30℃を超える中、水分をたくさん含んだ土嚢は非常に重く、時に2人がかりで運搬する必要もありましたが、皆さん声をかけ合いながら協力して活動されていました。

お一人おひとりの活動が、被災地を支え、少しずつ確実に復興へ向かっています。

＜ボランティアさんより＞

お疲れ様でした👏また金土日に参加します👏よろしくお願い致します。頑張りましょう👏

【9/18（日）活動報告②】

いわふね青年会議所の皆さまの主催で「ひらばやし緑日」が開催されました。

室内ではフランクフルト・わたあめ・かき氷・射的・ひも引きや能登新さんのさつまいもの炊き込みご飯に豚汁、そして大人も嬉しいマッサージコーナー！屋外ではカフェやシャボン玉等親子で楽しめる催し物となりました。



【9/19福祉学習】

神納小学校4年生の福祉学習で災害ボランティアセンターが取り上げられました。

9/19（月）のボランティアセンターの様子を先生が取材に来られ、動画撮影していかれました。

そして、授業で学んだことやボランティアのみなさんへの感謝の気持ちがたくさん詰まったメッセージが届きました。このメッセージを見て、スタッフのやる気もアップ！ボランティア活動の励みになります！

明日からの3日間も張り切ってボランティアのみなさんをお待ちしています！ありがとうございました！

【9/21（水）活動報告】

家屋復旧のための支援研修会

本日は社協職員や消防団、防災士の方を対象として、災害NGO結の前原土武氏を講師に迎え研修会が開かれました。

被災家屋の復旧作業に関わる目的や再建までの手順などについて説明を受けた後、畳や床下・壁や断熱材のチェックの仕方、使用する道具の説明などを実物を使用しながら説明していただきました。

今はまだ、専門の団体の方やボランティアの方が活動していますが、これからの復興期は地元のチームで継続した支援が行えるよう大切な研修となりました。

9/23（金）～9/25（日）まで活動を行います。

最近、すっかり涼しくなり秋の気配を感じるようになりました。朝と日中の気温差がありますので、体調を崩さないようくれぐれもご注意ください。

たくさんの皆様にご協力いただき復旧が進んでいます。あたたかいお気持ちありがとうございます。

【9/23（金）活動報告②】

災害ボランティア愛知人さんからお借りし、貸出ししていた送風機。役目を終え回収されてきました。

また、ロハス南阿蘇たすけあいさんからお借りしていた軽トラも役目を終え、ピカピカに洗車してメッセージを添えてお返しします。

災害ボランティアセンターとしての活動は残り2日。

少しずつ、役目を終えた道具たちもそれぞれの元へ旅立って行きます。

【9/24（日）活動報告】

ボランティア活動人数53名。生憎の雨風からスタートした本日のボランティアセンター。

午前中の活動はわずか3件。雨が強い時間帯に現地活動にあたってくださった皆様、大変ありがとうございました。

その他の皆さんは、NGO結 前原代表からの講義の後、雨が弱まってきたため、早めの休憩をとっていただき、午後から備溝の泥上げ作業となりました。

弱まったとは言っても終日雨模様。過酷な状況ではありましたが、活動開始後は声を掛け合いながら結束して活動に当たっていただきました。

センターに戻ってきた皆さんは泥だらけでしたが、表情からは充実感が感じられました。

“明日は（ボランティアセンターの活動は）ありますか？”

“昼まで待ってよかった”

皆さんからのお言葉でスタッフの疲れも吹き飛ばすようでした。

かなり体が冷えたかと思えます。風邪等ひかないよう、体調にはどうかお気をつけください。

明日も本日同様、泥出し作業を予定しております。ご支援のほど、よろしくお願いたします。

【9/25（日）朝の様子】



おはようございます。本日も受付が始まりました。少し肌寒いですが青空で気持ちの良い朝です。

災害ボランティアセンターとしての活動は本日が最終日となります。泥出しや部屋の片付けの活動があります。多くの皆さまからのご協力をお願いします。がんばろう！村上！

＜ボランティアさんより＞

ボランティアセンターの皆さんお疲れ様でした！！

暑い暑い日々、本当にお忙しい中ボランティアを暖かく迎えていただいたこと、感謝の気持ちでいっぱいです！ありがとうございました！

【9/25（日）支援物資】

災害NGO結の前原代表が、台風による大雨で被害を受けた静岡県へ向かいました。村上市災害ボランティアセンターは、多くの皆さまのご支援、ご協力により、本日でセンターとしての活動は一区切りを迎えました。これまで県内外の多くの企業、団体、個人様からご支援いただいた支援物資の水やタオルなどを、エールを込めて静岡県へお届けします。

＜ボランティアさんより＞

災害ボランティアセンターの皆さま、いつも元気よく送り出し、迎えていただきありがとうございました。毎日本当にお疲れ様でした。

全国からの支援を次の被災地で使ってもらふこと、大切だと思います。支援された方もきっとそう願っていると思います。



【お知らせ】

「村上市災害ボランティアセンター」は10/1から「むらかみ見守り支援センター」に移行します。今後のボランティアの募集については随時告知します。

【災害ボランティアセンター閉所のお知らせ】

毎日のように足を運んでくださった方、遠方からお越しくくださった方、そして温かいお言葉をかけて下さった方など、約4,100人のボランティアの皆様やセンター運営にご協力いただいた団体の皆様に支えられ、センターを運営して参りましたが、本日をもって災害ボランティアセンターとしての役割を終了いたします。これまで関わって頂いたすべての皆様に感謝申し上げます。なお、10月1日からは被災された方の相談支援を中心に「むらかみ見守り支援センター」を開設し業務を引き継いでいきます。今後出てくるボランティア依頼につきましては、村上市社会福祉協議会のホームページ等で随時募集のご案内をしたいと思っております。今後ともご協力をお願いいたします。ボランティアに関するお問い合わせはむらかみ見守り支援センターまでお願いいたします。